

高等学校における道德教育の一層の充実に向けて

はじめに

- 1 これからの道德教育とは……
 - －小・中学校における学習指導要領一部改正を受けて－
 - (1) 中央教育審議会 教育課程部会「道德教育専門部会」配付資料より
 - (2) 文部科学省パンフ「道德教育抜本的改善・充実」（平成27年3月）等より
 - (3) 中学校学習指導要領（平成27年3月）〔一部抜粋〕より

- 2 高等学校学習指導要領における改訂の要点を手掛かりに
 - (1) 『高等学校学習指導要領』（平成21年3月）における道德教育に係る記述
 - (2) 高等学校における道德教育の基本的な考え方
 - －『高等学校学習指導要領解説－総則編－』（平成21年11月）より－
 - (3) 高等学校における道德教育の全体計画の作成
 - －『高等学校学習指導要領解説－総則編－』（平成21年11月）より－

- 3 「私たちの道德 中学校」（平成26年度配布）より

- 4 〔事例検討〕小・中学校における道德科の指導を手掛かりに考えてみよう！

- 5 道德教育推進のために－その具体的方策（例）－

おわりに

教育再生実行会議 「いじめの問題等への対応について」(第一次提言) (平成25年2月26日)

子どもが命の尊さを知り、自己肯定感を高め、他者への理解や思いやり、規範意識、自主性や責任感などの人間性・社会性を育むよう、国は、道徳教育を充実する。そのため、道徳の教材を抜本的に充実するとともに、道徳の特性を踏まえた新たな枠組みにより教科化し、指導内容を充実し、効果的な指導方法を明確化する。その際、現行の道徳教育の成果や課題を検証するとともに、諸外国における取組も参考に、丁寧に議論を重ねていくことを期待する。

道徳教育の充実に関する懇談会

「今後の道徳教育の改善・充実方策について」(報告) (H25.3.26設置、10回の審議を経て、H25.12.26報告。)

◆道徳教育の課題

- ・ 学校間や教師間の差が大きい
- ・ 各教科等との役割分担や関連を意識した指導が不十分
- ・ 指導方法に不安を抱える教師が多い
- ・ 学年が上がるにつれて、児童生徒の受け止めがよくなる
- ・ 振り返らせたり、具体的にどう行動すればよいかという側面に
関する指導が不十分

◆道徳教育の改善の方向性

道徳教育の改善を図るため、制度上、道徳の時間を「特別の教科 道徳」(仮称)として新たに位置付けることを検討すべき。

- ① 道徳教育の目標と「道徳の時間」の目標をわかりやすい記述に改め、両者の関係を明確化。
- ② 発達段階ごとに内容を明確化。いじめの防止や生命の尊重、自律心、家族や集団の一員としての自覚、ルールやマナー、法の意義を理解して守ること、社会の一員としての主体的な生き方、アイデンティティなどに留意。
- ③ 発達段階をより重視した指導方法の確立。具体的な動作等を取り入れた指導や問題解決的な指導の充実。全体計画の実質化、各教科等との関連付けの強化。
- ④ 数値による評価は今後も行わない。
- ⑤ 一定水準の授業が実施されるよう、教科書を導入することが
適当。

- 「心のノート」を全面改訂した「私たちの道徳」を全国の小・中学校に配布。平成26年4月から使用開始。

中央教育審議会

「道徳に係る教育課程の改善等について」(答申) (H26.3.4設置、10回の審議を経て、H26.10.21答申。)

- ① 道徳の時間は、学習指導要領に示された内容を体系的に学ぶと、どの教科と共通する側面と、道徳教育全体の要となる人格全体に関わる道徳性を育成するものであり、原則として学級担任が担当することが望ましいこと、数値による評価はなじまないことなど、教科にはない側面があることを踏まえ、道徳の時間を「特別の教科 道徳」(仮称)として位置付ける。

※特定の価値観を押し付けたり、主体性をもたず言われるままに行動するよう指導したりすることは、道徳教育が目指す方向の対極と指摘。

- ② 目標を、明確で理解しやすいものに改善。道徳教育も「特別の教科 道徳」(仮称)も、最終的には「道徳性」の育成が目標。道徳教育の目標は簡潔な表現に改め、「特別の教科 道徳」(仮称)の目標は、判断力、道徳的心情、道徳的行為を行う意欲や態度を育てることを通じて、よりよく生きていくための資質・能力を培うこととして提示。

- ③ 内容をより発達の段階を踏まえた体系的なものに改善。四つの視点の順序等を適切に見直す。キーワードなども活用しつつ、内容項目をより体系的に効果的に示す。情報モラルや生命倫理などの現代的課題の扱いを充実。

- ④ 対話や討論など言語活動を重視した指導、道徳的習慣や道徳的行為に関する指導、問題解決的な学習、小・中学校の違いを踏まえた指導など、多様で効果的な道徳教育の指導方法へと改善。家庭や地域にも開かれた道徳教育を進める。

- ⑤ 「特別の教科 道徳」(仮称)の中心となる教材として、検定教科書を導入。

- ⑥ 一人一人のよさを伸ばし、成長を促すための評価を充実。多面的、継続的に把握し、総合的に評価。数値などによる評価は不適切。

※指導要録の具体的な改善案等については、会議を設け、今後専門的に検討。

学習指導要領等の一部改正

- ◇ 学校教育法施行規則において、道徳の時間を「特別の教科 道徳」として位置付け、学習指導要領において、学校教育全体としての道徳教育に関することは「第3章 総則」に、「特別の教科 道徳」に関することは「第3章 特別の教科 道徳」へと構造化。

- ◇ 学校教育全体としての道徳教育の目標は、児童生徒の道徳性を養うという趣旨を明確化。道徳科の目標は、直成すべき資質・能力を明確化。

- ◇ 内容について、
・ 「自分自身」「人との関わり」「集団や社会との関わり」「生命や自然、崇高なものとの関わり」の視点により、構造化・体系化
・ 内容項目に応じたキーワード
・ いじめの問題への対応を充実 などの改善を行う。

- ◇ 指導方法の配慮事項として、問題解決的な学習、体験的な学習など指導方法の工夫のほか、情報モラル、環境、科学技術と生命倫理等に関する事項を追加。

- ◇ 教材については、教育基本法や学校教育法等に従い、発達の段階に即し、特定の見方や考え方に偏った取扱いがなされていないことなどの配慮事項を明記。

- ◇ 評価については、児童生徒の成長の様子を把握することが基本。数値評価を行わないことは従前と同様。

※近く、専門家によるWGを設置し、専門的に検討。

- ◇ 道徳教育の全体計画や教育活動等の公表など、家庭や地域社会との連携について記載を充実。

道徳教育の抜本的改善・充実

平成27年3月

道徳の時間の課題例

- 「道徳の時間」は、各教科等に比べて軽視されがち
- 読み物の登場人物の心情理解のみに偏った形式的な指導
- 発達の段階などを十分に踏まえ、児童生徒に望ましいと思われる分かりきったことを言わせたり書かせたりする授業

教育再生実行会議の提言や中央教育審議会の答申を踏まえ、「道徳の時間」(小・中学校で週1時間)を「特別の教科 道徳」(「道徳科」)(引き続き週1時間)として新たに位置付ける学習指導要領の一部改正

具体的なポイント

- ☑ 道徳科に検定教科書を導入
- ☑ 内容について、いじめの問題への対応の充実や発達の段階をより一層踏まえた体系的なものに改善
 - ・「個性の伸長」「相互理解、寛容」「公正、公平、社会正義」「国際理解、国際親善」「よりよく生きる喜び」の内容項目を小学校に追加
- ☑ 問題解決的な学習や体験的な学習などを取り入れ、指導方法を工夫
- ☑ 数値評価ではなく、児童生徒の道徳性に係る成長の様子を把握
※私立小・中学校はこれまでどおり、「道徳科」に代えて「宗教」を行うことが可能

「考え、議論する」道徳科への転換により
児童生徒の道徳性を育む

平成27年度から、一部改正学習指導要領の趣旨を踏まえた取組可能

今後

- ☑ 教員の指導力向上のため、教員養成や研修の充実等について検討
- ☑ 評価について専門家会議を設け、専門的に検討

小学校は平成30年度、中学校は平成31年度から、検定教科書を導入して「道徳科」を実施

第3章 教育課程の編成及び実施

5 第1節 教育課程編成の一般方針

2 道德教育（第1章第1款の2）

2 学校における道德教育は、生徒が自己探求と自己実現に努め国家・社会の一員としての自覚に基づき行為しうる発達の段階にあることを考慮し人間としての在り方生き方に関する教育を学校の教育活動全体を通じて行うことにより、その充実を図るものとし、各教科に属する科目、総合的な学習の時間及び特別活動のそれぞれの特質に応じて、適切な指導を行わなければならない。

道德教育は、教育基本法及び学校教育法に定められた教育の根本精神に基づき、人間尊重の精神と生命に対する畏敬の念を家庭、学校、その他社会における具体的な生活の中に生かし、豊かな心を持ち、伝統と文化を尊重し、それらをはぐくんできた我が国と郷土を愛し、個性豊かな文化の創造を図るとともに、公共の精神を尊び、民主的な社会及び国家の発展に努め、他国を尊重し、国際社会の平和と発展や環境の保全に貢献し未来を拓く主体性のある日本人を育成するため、その基盤としての道德性を養うことを目標とする。

道德教育を進めるに当たっては、特に、道德的実践力を高めるとともに、自他の生命を尊重する精神、自律の精神及び社会連帯の精神並びに義務を果たし責任を重んずる態度及び人権を尊重し差別のないよりよい社会を実現しようとする態度を養うための指導が適切に行われるよう配慮しなければならない。

(1) 高等学校における道德教育

25 ア 高等学校における道德教育の考え方

道德教育は、豊かな心を持ち、人間としての在り方生き方の自覚を促し、道德性を育成することをねらいとする教育活動であり、社会の変化に主体的に対応して生きていくことができる人間を育成する上で重要な役割をもっている。

今日の家庭や地域社会及び学校における道德教育の現状や生徒の実態などからみて、更に充実を図ることが強く要請されている。

殊に、高等学校においては、生徒の発達の段階に対応した指導の工夫が求められることや小・中学校と異なり道德の時間が設けられていないこともあって、学校の教育活動全体を通じて行う道德教育の指導のための配慮が特に必要である。

このため、高等学校における道德教育の考え方として示されているのが、人間としての在り方生き方に関する教育であり、公民科やホームルーム活動を中心に各教科・科目等の特質に応じ学校の教育活動全体を通じて、生徒が人間としての在り方生き方を主体的に探求し豊かな自己形成ができるよう、適切な指導を行うものとしている。小・中学校においては、「自分自身」「他の人とのかかわり」「自然や崇高なものとのかかわり」「集団や社会とのかかわり」の四つの視点から示されている内容について、道德の時間を要として学校の教育活動全体を通じて道德教育を行うこととされているが、この小・中学校における道德教育も踏まえつつ、生徒の発達の段階にふさわしい高等学校における道德教育を行うことが大切である。

今回の改訂においても、「生きる力」の育成を基本的なねらいとしており、この「生きる力」とは、変化の激しい社会において、いかなる場面でも他人と協調しつつ自律的に社会生活を送ることができるために必要な人間としての実践的な力であり、豊かな人間性を重要な要素とする。このような力を育てるのが、心の教育であり、道德教育である。

そして、そのような「生きる力」の育成を図るために、今回の学習指導要領の改訂の方針の一つとして、「道德教育や体育などの充実により、豊かな心や健やかな体を育成すること」が挙げられている。今日の生徒の現状等を踏まえてこれからの学校教育を考えると、道德教育の重要性が改めて強調されるのである。

50 イ 人間としての在り方生き方に関する教育の趣旨

高等学校においては、「生徒が自己探求と自己実現に努め国家・社会の一員としての自覚に基づき行為しうる発達の段階にあることを考慮し人間としての在り方生き方に関する教育を学校の教育活動全体を通じて行うことにより」、道德教育の充実を図ることとしている。

55 高等学校段階の生徒は、自分の人生をどう生きればよいか、生きるものの意味は何かということについて思い悩む時期である。また、自分自身や自己と他者との関係、さらには、広く国家や社会について関心を持ち、人間や社会の在るべき姿について考えを深める時期でもある。それらを模索する中で、生きる主体としての自己を確立し、自らの人生観・世界観ないし価値観を形成し、主体性をもって生きたいという意欲を高めていくのである。したがって、高等学校において

は、このような生徒の発達の段階を考慮し、人間の在り方に深く根ざした人間としての生き方に関する教育を推進することが求められる。

人間は、同じような状況の下に置かれている場合でも必ずしもすべて同じ生き方をするととは限らず、同一の状況の下でも、いくつかの生き方が考えられる場合が少なくないが、こうした考えられるいくつかの生き方の中から、一定の行為を自分自身の判断基準に基づいて選択するということが、主体的に判断し行動するということである。社会の変化に対応して主体的に判断し行動しうるためには、選択可能ないくつかの生き方の中から自分にふさわしいしかもよりよい生き方を選ぶ上で必要な、自分自身に固有な選択基準ないし判断基準をもたなければならない。このような自分自身に固有な選択基準ないし判断基準は、生徒一人一人が人間存在の根本性格を問うこと、すなわち人間としての在り方を問うことを通して形成されてくる。また、このようにして形成された生徒一人一人の人間としての在り方についての基本的な考え方が自分自身の判断と行動の選択基準となるのである。

このような自分自身に固有な選択基準ないし判断基準は、具体的には、様々な体験や思索の機会を通して自らの考えを深めることにより形成されてくるものである。したがって、人間としての在り方生き方に関する教育においては教師の一方的な押し付けや単なる先哲の思想の紹介にとどまることのないように留意し、人間としての在り方生き方について生徒が自ら考え、自覚を深めて自己実現に資するように指導の計画や方法を工夫することが重要である。その際、総則第1款の4でも示しているよう、就業体験やボランティア体験など体験的な活動を重視することが大切である。

20

ウ 各教科・科目等における人間としての在り方生き方に関する教育の展開

人間としての在り方生き方に関する教育は、学校の教育活動全体を通じて各教科・科目、総合的な学習の時間及び特別活動のそれぞれの特質に応じて実施するものである。特に公民科の「現代社会」及び「倫理」、特別活動にはそれぞれの目標に「人間としての在り方生き方」を掲げており、これらの中核的な指導の場面として重視し、道德教育の目標全体を踏まえた指導を行う必要がある。

今回の改訂において、公民科については、人間としての在り方生き方についての自覚を一層深めることを重視している。

「現代社会」では、科目の導入において、社会の在り方を考察する基盤として、幸福、正義、公正等について理解させ、倫理、社会、文化、政治、法、経済、国際社会にかかわる現代社会の諸課題を取り上げて考察させる中でさらに理解を深めさせるとともに、科目のまとめとして議論などを通して自分の考えをまとめたり、説明したり、論述したりするなど課題を探究させる学習を行い、人間としての在り方生き方についての学習の充実を図ることとした。

「倫理」では、人間としての在り方生き方への関心を高め、その手掛かりとして先哲の考え方を取り上げて自分自身の判断基準を形成するために必要な倫理的な諸価値について理解と思索を深めるとともに、課題を探究する学習を一層重視し、論述や討論などの言語活動を充実させ、社会の一員としての自己の生き方を探求できるようにした。

なお、公民科については、「現代社会」又は「倫理」・「政治・経済」をすべての生徒に履修させることとしている（総則第3款の1の(1)）。

次に、特別活動は、今回の改訂では、ホームルーム活動、生徒会活動、学校行事ごとに目標を新たに規定し、よりよい人間関係を築く力、集団や社会の一員としてよりよい生活づくりに参画する態度の育成を重視し、それらにかかわる力を実践を通して高めるための体験活動や生活を改善する話し合い活動を一層充実している。

特に、ホームルーム活動を中心として特別活動全体を通じて、社会において自立的に生きることができるようになるため、社会の一員としての自己の生き方を探求するなど、人間としての在り方生き方に関する指導が行われるようにすることとし、その一層の充実を図っている。指導に当たっては、人間としての在り方生き方の指導がホームルーム活動を中心として、特別活動の全体を通じて行われるようにすることはもとより、その際、他の教科、特に公民科や総合的な学習の時間との関連を図ることに配慮する必要がある（学習指導要領第5章特別活動第3の1の(4)）。

以上に加え、総合的な学習の時間の目標として、「学び方やものの考え方を身に付け、問題の解決や探究活動に主体的、創造的、協同的に取り組む態度を育て、自己の在り方生き方を考えることができるようにする」ことを示すとともに、学習活動の例示として「自己の在り方生き方や進路について考察する学習活動」（学習指導要領第4章総合的な学習の時間第3の1の(5)）を示している。また、学校設定教科に関する科目として「産業社会と人間」を設けることができることを示し、その際の配慮事項として、「産業社会における自己の在り方生き方について考えさせ、社会に積極的に寄与し、生涯にわたって学習に取り組む意欲や態度を養う」ようにすることや、「自己の将来の生き方や進路についての考察」（総則第2款の5）を行う指導を示している。このほかの各教科・科目においても目標や内容、配慮事項の中に関連する記述があり、例えば、各学科に共通する各教科の目標との関連をみると、特に次のような点を指摘することができる。…（中略）…

60

(2) 道德教育の目標

総則第1款の2に示された道德教育の目標は、学校における教育活動全体を通じて行われる道德教育の目標であり、各教科・科目、総合的な学習の時間及び特別活動の指導を通じて道德教育は、
5 常にこの目標を目指して行われる。

学校における道德教育の目標は、教育基本法及び学校教育法に定められた教育の根本精神に基づいて設定されている。いうまでもなく、教育基本法や学校教育法は、日本国憲法に掲げられた民主的で文化的な国家を更に発展させるとともに、世界の平和と人類の福祉の向上に貢献する国民の育成を目指す我が国の教育の在り方を示したものである。そのことを実現するのが道德教育であり、
10 そのために特に重視しなければならないことが目標として示されている。…（中略）…

ア 人間尊重の精神と生命に対する畏敬の念を培う…（中略）…

イ 豊かな心をはぐくむ…（中略）…

ウ 伝統と文化を尊重し、それらをはぐくんできた我が国と郷土を愛し、個性豊かな文化の創造を
15 図る人間を育成する…（中略）…

エ 公共の精神を尊び、民主的な社会及び国家の発展に努める人間を育成する…（中略）…

オ 他国を尊重し、国際社会の平和と発展や環境の保全に貢献する人間を育成する…（中略）…

カ 未来を拓く主体性のある日本人を育成する…（中略）…

キ 道德性を養う

20 道德性とは、人間としての本来的な在り方やよりよい生き方を目指してなされる道德的行為を可能にする人格的特性であり、人格の基盤をなすものである。それはまた、人間らしいよさであり、道德的諸価値が一人一人の内面において統合されたものといえる。学校における道德教育においては、各教育活動の特質に応じて、特に道德性を構成する諸様相である道德的心情、道德的
25 判断力、道德的実践意欲と態度などを養うことを求めている。

道德的心情は、道德的価値の大切さを感じ取り、善を行うことを喜び、悪を憎む感情のことで
ある。人間としてのよりよい生き方や善を志向する感情であるともいえる。それは、道德的行為
への動機として強く作用するものである。

道德的判断力は、それぞれの場面において善悪を判断する能力である。つまり、人間として生
30 きるために道德的価値が大切なことを理解し、様々な状況下において人間としてどのように対処
することが望まれるかを判断する力である。的確な道德的判断力をもつことによって、それぞれの
場面において機に応じた道德的行為が可能になる。

道德的実践意欲と態度は、道德的心情や道德的判断力によって価値があるとされた行動をと
うとする傾向性を意味する。道德的実践意欲は、道德的心情や道德的判断力を基盤とし道德的価
35 値を実現しようとする意志の働きであり、道德的態度は、それらに裏付けされた具体的な道德的
行為への身構えといえることができる。

また、この他に、道德的習慣などがある。道德的習慣は、長い間繰り返して行われているうち
に習慣として身に付けられた望ましい日常的行動の在り方である。これがやがて、第二の天性と
も言われるものとなる。道德性の育成においては、道德的習慣をはじめ道德的行為の指導も重要
である。

40 これらの道德性の諸様相は、それぞれが独立した特性ではなく、相互に深く関連しながら全体
を構成しているものである。したがって、これらの諸様相が全体として密接な関連をもつように
指導することが大切である。そして、道德的行為が生徒自身の内から自発的、自律的に生起する
よう道德性の育成に努める必要がある。

45 (3) 道德教育を進めるに当たっての配慮事項

道德教育を進めるに当たっては、生徒の内面に根ざした道德性を養うこととのかかわりにおいて
道德的実践力を高めるよう配慮して指導することが大切である。

本来、道德的実践は、内的な力としての道德的実践力が基盤にななければならない。道德的実践力
が高まることによってより確かな道德的実践ができるのであり、そのような道德的実践を繰り返す
50 ことによって、内なる道德的実践力も深まるのである。道德教育はこのような相互作用によって充
実していくようにしなければならない。

そしてその際、自らの生命の大切さを深く自覚するとともに、他の生命を尊重する「自他の生命
を尊重する精神」、他者の考えを尊重しつつ、自ら考え、自らの意志で決定し、その行為の結果に
は責任をもつという「自律の精神」、自分が社会の構成員の一員であることを認識し、その中での
55 役割を自覚して主体的に協力していくことのできる「社会連帯の精神」、社会の秩序と規律を理解
して自らに課せられた「義務を果たし責任を重んずる態度」、さらには、自分と異なる他者の意見
に十分耳を傾け、他者を尊重するとともに、各人が自他の「人権を尊重し」、世の中からあらゆる
差別や偏見をなくすよう努力し、望ましい社会の理想を掲げ、そのような社会の実現に積極的に尽
くすよう努める態度を養うよう配慮する必要がある。

60

第5節 教育課程の編成・実施に当たって配慮すべき事項

3 指導計画の作成に当たって配慮すべき事項（第1章第5款の3）

(4) 道徳教育の全体計画の作成（第1章第5款の3の(4)）

5

(4) 全教師が協力して道徳教育を展開するため、第1款の2に示す道徳教育の目標を踏まえ、指導の方針や重点を明確にして、学校の教育活動全体を通じて行う道徳教育について、その全体計画を作成すること。

10 (1) 道徳教育の全体計画の作成

道徳教育の全体計画は、学校における道徳教育の基本的な方針を示すとともに、学校の教育活動全体を通して、道徳教育の目標を達成するための方策を総合的に示した教育計画である。

学校における道徳教育は、全教育活動が有機的に関連し合って進められなければならないが、その中軸となるのは、学校の設定する道徳教育の基本方針である。全体計画は、その基本方針を具体化する上で、学校として特に工夫し、留意すべきことは何か、各教育活動がどのような役割を分担するのかが、家庭や地域社会との連携をどう図っていくのかなどについて総合的に示すものでなければならない。…（中略）…

(2) 全体計画の内容

20 全体計画は、各学校において、校長の方針の下に、全教師の参加と協力を得ながら創意と英知を結集して独自に作成されるものであるが、これまでに述べられた意義を踏まえると、次のような事項を含めて作成することが望まれる。

ア 基本的把握事項

- (ア) 教育関係法規の規定、時代や社会の要請や課題、教育行政の重点施策
- 25 (イ) 学校や地域の実態と課題、教職員や保護者の願い
- (ウ) 生徒の実態や発達の段階等

イ 具体的計画事項

- (ア) 学校の教育目標、道徳教育の重点目標
学校の教育目標及び「ア 基本的把握事項」に基づいた各学校の道徳教育の重点目標
- 30 (イ) 各教科、総合的な学習の時間及び特別活動などとの関連
重点的指導との関連や各教科、総合的な学習の時間及び特別活動等の指導計画を作成する際の道徳的観点、中核的な指導の場面である公民科の「現代社会」及び「倫理」、特別活動の「ホームルーム活動」を始めとして各教科等における道徳性の育成にかかわる内容
- (ウ) 特色ある教育活動や豊かな体験活動における指導との関連
- 35 各学校の特色ある教育活動や生徒指導との関連、生徒の内面に根ざした道徳性の育成にかかわる豊かな体験活動との関連等
- (エ) ホームルーム、学校の環境の充実・整備や生活全般における指導の方針
日常的なホームルーム経営を充実させるための具体的な計画等
- (オ) 生徒との信頼関係をはぐくむ教師の在り方や教師間の連携方法
- 40 (カ) 家庭、地域社会、関係機関、小学校・中学校・特別支援学校等との連携の方針
道徳教育講演会の実施、地域教材の開発や活用、広報活動や授業等に保護者や地域の人々の積極的な参加を得る具体的な計画や方策、小・中学校や特別支援学校等との連携方針等
- (キ) 道徳教育の推進体制
学校の全教師による推進体制等
- 45 (ク) その他
重点的指導に関する添付資料等
…（中略）…

(3) 全体計画作成上の創意工夫と留意点

50 全体計画の作成に当たっては、理念だけに終わることなく、上記の内容を踏まえ、各学校の具体的な教育実践に生きてはたらく計画になるよう体制を整え、全教師で創意工夫をし、特に次のことに留意しながら取り組むことが必要である。

- ア 校長の方針の下に全教師の協力・指導体制を整える…（中略）…
- イ 道徳教育の特質を理解し、具体的な取組を明確にし、教師の意識の高揚を図る…（中略）…
- 55 ウ 各学校の特色を生かして重点的な道徳教育が展開できるようにする…（中略）…
- エ 学校の教育活動全体を通じた道徳教育の相互の関連性を明確にする…（中略）…
- オ 生徒の実態を踏まえ、保護者及び地域の人々の意見を活用することや、学校間交流、関係諸機関との連携に心掛ける…（中略）…
- カ 計画の実施及び評価・改善のための体制を確立する…（中略）…



私たちの道徳

趣旨

- 「私たちの道徳」は、「心のノート」を全面改訂したものであり、児童生徒が道徳的価値について自ら考え、実際に行動できるようになることをねらいとして作成した道徳教育用教材です。

特徴

- 道徳の時間はもちろん、学校の教育活動全体を通じて、また、家庭や地域においても活用することが期待されます。
- 学習指導要領に示す道徳の内容項目ごとに「読み物部分」と「書き込み部分」とで構成しています。
- 児童生徒の発達段階を踏まえ、先人等の名言、偉人や著名人の生き方に関する内容を多く取り上げるとともに、いじめの問題への対応や我が国の伝統と文化、情報モラルに関する内容などの充実を図っています。

■ 小学校1・2年



●160ページ

家庭と連携して、児童の豊かな心を育んでいくことができるように、家の人からの書き込み欄を豊富に設けています。

■ 小学校3・4年



●176ページ

身近な人々と温かい人間関係を築いていくことができるように、家族や友達など身近な人との関わりに関する内容を豊富に盛り込んでいます。

■ 小学校5・6年



●192ページ

話合いを通して、自分の考えを深め、自らの成長に気付いていくことができるように、話合いの題材を豊富に盛り込んでいます。

■ 中学校



●240ページ

人物の生き方を通して、自己の生き方を考えていくことができるように、先人、偉人や著名人のメッセージや格言などを豊富に盛り込んでいます。

重視した内容例

いじめの問題への対応

いじめに正面から向き合う内容や善悪の判断、信頼・友情、規範意識、公正・公平などの内容を充実【例】

●小学校1・2年

「およげないりすさん」(読み物資料)
・人としてしてはならないことに関すること

●小学校5・6年

「愛の日記」(読み物資料)
「いじめている君へ」(メッセージ)

●小学校3・4年

「同じ仲間だから」(読み物資料)
・人として守らなくてはならないきまりに関すること

●中学校

「あなたの身近にいじめはありますか」
「いじめ撲滅宣言」



▲ 小学校1・2年

自他の生命の尊さについて自覚を深めさせる内容を充実

【例】

●小学校1・2年

「ハムスターの赤ちゃん」(読み物資料)
「おはかまいり」(読み物コラム)

●小学校3・4年

「ヒキガエルとロバ」(読み物資料)
「命」(詩)

●小学校5・6年

「その思いを受けついで」(読み物資料)
「命てんでんこ」(生徒作文)

●中学校

「キミばあちゃんの椿」(読み物資料)
・人の命を救うことに尽力した緒方洪庵(医師・蘭学者)のコラム

いじめ撲滅宣言

すべての生徒は、「楽しい学校生活を送る」権利を持っています。
「いじめ」は、この権利を奪うものです。
いじめを受けた人のみならず、
いじめを行った人や原因で苦しんだ人にも、
心に癒えることのない傷が残るのです。
いじめは、絶対に許してはならない大きな悪です。
人間は本来、優しい心を持っています。
人を思いやり、愛し、楽しむ心があるのです。
その優しさを表す勇氣こそ、私達は持つべきなのです。

東京都内の全ての中学校から、全ての生徒の責任として、
あらゆるいじめをなくし、
互いに支えあい、誰もが楽しいと思える学校を作るために、
私達はここに次のことを宣言します。

- 一、どんな理由があっても「いじめ」は絶対にしません。
- 一、いじめを見つけたら、自分たちにも出来ることを考え、行動します。
- 一、一人ひとりが互いの個性を認め合い、思いやりの心を持って、
中学校生活を送ります。

東京都立中央中学校生徒会委員会
平成19年12月22日

▲ 中学校

ヒキガエルとロバ

雨上がりの細道、学校帰りのアドルフとヒキガエルたちの前に、ヒキガエルが一びき、とび出してきた。
「うわっ、なんだ」
「気持ち悪い」
「ヒキガエルだぞ」
「石をぶつけてやれ」
子どもたちは口々にささげながら、ヒキガエルを目がけて、小石を投げつけ始めた。
「当たった、当たった」
「もっころを持ってこいよ」
アドルフに言われて、ヒキガエルたちは、道ばたから石を集めてきた。
ヒキガエルは、子どもたちに追われながら、どろんこ道にある葉のわだかへ転がりこんだ。



▲ 小学校3・4年

■ 我が国の伝統と文化

日本人としての自覚をもって、我が国の伝統の継承と新しい文化の創造に貢献しうる能力や態度の育成に資する内容を充実

【例】

● 小学校1・2年

「ぎおんまつり」(読み物資料)

● 小学校3・4年

- ・日本の伝統と文化に関すること
(和服・和食・和室・雑煮・ふろしきなど)
- ・日本の年中行事に関すること
(端午の節句・七夕・月見・節分など)

● 小学校5・6年

「人間をつくる道—剣道—」(読み物資料)

- ・伝統的な日本らしさに関すること
(もちつき・人形浄瑠璃・切子など)

● 中学校

- ・海外で親しまれる日本の文化に関すること
(浮世絵・歌舞伎・漫画・太鼓など)
- ・日本人の精神と伝統を生かして法隆寺の修理を行った西岡常一(宮大工)のコラム

和食
日本人が昔から食べてきたものです。自然のめぐみを素材にして調理しています。



▲ 小学校3・4年

きおんまつり

コンコンキキキ コンキキチン……
ぎおんまつりのころ、京都の町には、全国から大勢の子どもたちが、やってきます。ぼくがのっているぎおんまつりの、ほこがまがり角に、来たとき、ギギキという音がして、ほこがグーンと、かたむきました。

▲ 小学校1・2年

道

▲ 小学校5・6年

■ 情報モラル

コンピュータや携帯電話等の急速な普及等による社会の情報化の進展に対応し、情報モラルに関する内容を充実

【例】

● 小学校3・4年

「少しだけなら」(読み物資料)

- ・コンピュータや携帯電話などの適正な利用に関すること

● 小学校5・6年

「知らない間の出来事」(読み物資料)

- ・情報機器の特性と適正な利用に関すること

● 中学校

「言葉の向こうに」(読み物資料)

- ・情報機器の利点と問題点を踏まえた上での適正な利用に関すること

「インターネットや携帯電話など、便利な情報機器は、私たちの生活に欠かせないものになっています。でも、使い方を間違えると、トラブルの原因になります。正しい使い方を学び、安全に活用しましょう。」

▲ 小学校3・4年

情報社会に生きる私たち

▲ 小学校5・6年

考えよう 情報社会の光と影

離れていても 伝えられる

▲ 中学校

読み物部分

構成

書き込み部分

■ 読み物資料


読み物資料

小学校3・4年

●読み物部分には、偉人や著名人などの生き方に関する内容が多くあります。

●人物の生き方を通して生きることの魅力や意味の深さについて考えを深めることができます。

▲ 小学校3・4年



| 読み物資料数 | |
|--------|-------------------------------|
| 小学校 | 1・2年 12 3・4年 12 5・6年 13 |
| 中学校 | 9 |

column

オリンピックを員に世界の文化にせねばならない

▲ 中学校

- 人物のコラム
- 先人等の名言・格言
- 話や詩・歌 など

■ 児童生徒の書き込み欄

大切な家族を思つて...

●自分の成長を振り返ることができるように、学年別に書き込む欄があります。

●発達の段階や内容に応じて絵を描いたり色をぬったりする欄もあります。

▲ 小学校5・6年

■ 家族の書き込み欄

●小学校1・2年用には、「家の人からの」欄が多くあります。

この本のつかい方

小学校1・2年

▲ 小学校1・2年

活用場面

- 学校で
道徳の時間で
学校の教育活動全体を通じて
- 家庭で
- 地域で

- 読み物を読んで、自分の考えを深めることができます。
- 考えを書き込んで、自分自身を振り返ることができます。
- 友達や家族、地域の人と話し合うなどして、いろいろな人の考えを聞き、自分の生き方に生かしていくことができます。

この本のつかい方

小学校1・2年

▲ 小学校1・2年



道徳科の指導における
改善／充実について

兵庫教育大学 谷田増幸

読み物資料の分析

- ある帰納的なアプローチ—
- 横山利弘氏、藤永芳純氏の
言説を手掛かりに—

道徳教育の目標？

→道徳性を養う

道徳科の目標とは？

- 道徳的判断力
- 道徳的心情
- 道徳的実践意欲と態度
(意志の働きと身構え)
を育てる

道徳科の指導では？

→「行動の仕方」より

→「行動を支える心」

ことば・行動←生徒指導(?)

こころ(心)←道徳科の指導
(道徳性を養うため)

授業成立の要件？

- 新しい情報.....
- 確認・納得

=「授業は学習」ではないのか？

読み物資料.....？

ことば(言葉)・文字表現
=人間存在の本質

※.....「人間は名付けられて在る。」

読み物資料.....？

- 教師は.....
- 子どもの読みを
突き抜けているか？

資料の何に注目するか.....？

-言動(言葉・行動)の変化？
-心理(気持ち)の変化？

- 道徳的状況
- 道徳的課題
- 道徳的変容

読み物資料の“読み”から —ある1つの帰納的なアプローチ—

どう読んだら授業になるのか？

「考える道徳」、
「議論する道徳」のためには、
資料の理解をどう進めるのか。

〈第1段階〉 何を読むのか.....？

.....虚心坦懐に読む.....

- ①筋を読む。
 - ②気持ち(心理)を読む。
 - ③道徳上の問題点を読む。
 - ④人間を読む。
- ここまで読んでおきたい。

〈第2段階〉場面分け
道徳的問題としての“起承転結”……？

〈起〉……出来事が起こる。

〈承〉……道徳的悩み・葛藤

〈転〉……どう解決していくのか。

←助言者(サポーター)の登場

〈結〉……主人公が

どう変わっていくのか。

※あくまでも“目安”に過ぎない！

〈第3段階〉
中心場面の設定……

〈第4段階〉
中心発問の決定……

〈第5段階〉
主な生徒の反応を考える……

〈第6段階〉
ねらい……(帰納的方法?)

子どもの身近な出来事……？

→ときとして、

授業中の子どもの発言を

押さえ込んでしまうことも……。

実際の読み物資料では……？

◆ 資料を読む ◆

① 生き方を自覚したのはだれか。
(主人公)

② 生き方を自覚することになった
出来事は何か。

③ 生き方を自覚するところはどこか。
(文中に線を引いてみよう。)

あらためて、道徳科の指導とは？

→でも、

道徳科の指導は

それだけに収まるのか……？

あらためて、道徳科の指導とは？

→○「主体的に学習に取り組む」

○「教師が生徒と共に考える」

◇「様々な価値観について多面的・
多角的な視点から」

◇「問題解決的な学習などの
指導方法の工夫」等

| | 小学校第1学年及び第2学年 (19) | 小学校第3学年及び第4学年 (20) | 小学校第5学年及び第6学年 (22) | 中学校 (22) | | | | |
|----------------|--|---|---|--|--|--|--|--|
| A 主として自己に關すること | <p>善悪の判断 自律、自由と責任</p> <p>正直、誠実</p> <p>節度、節制</p> <p>個性の伸長</p> <p>希望と勇氣 努力と強い意志</p> <p>真理の探究</p> | <p>(1) よいことと悪いこととの区別をし、よいと思うことを進んで行うこと。</p> <p>(2) うそをついたりごまかしをしなしたりしないや、素直に伸び伸びと生活すること。</p> <p>(3) 健康や安全に気を付け、物や金銭を大切に、身の回りを整え、わがままをしなや、規則正しい生活すること。</p> <p>(4) 自分の特徴に気が付くこと。</p> <p>(5) 自分のやるべき勉強や仕事をしっかりと行うこと。</p> | <p>(1) 自由を大切に、自律的に判断し、責任のある行動をすること。</p> <p>(2) 誠実に、勇ましい心で生活すること。</p> <p>(3) 安全に気を付けることや、生活習慣の大切さについて理解し、自分の生活を直し、節度を守り節制し心掛けること。</p> <p>(4) 自分の特徴を知って、短所を改め長所を伸ばすこと。</p> <p>(5) より高い目標を立て、希望と勇氣をもち、困難があってもくじけず努力して物事をやり抜くこと。</p> <p>(6) 真理を大切に、物事を探究しようとする心をもつこと。</p> | <p>(1) 自律の精神を重んじ、自主的に考え、判断し、誠実に実行してその結果に責任をもつこと。</p> <p>(2) 勇ましい生活習慣を身に付け、心身の健康の増進を図り、節度を守り節制し心掛けること。</p> <p>(3) 自己を正し、自己の向上を図るとともに、個性を伸ばして表現したき方を進めようとする。</p> <p>(4) より高い目標を設定し、その達成を目指す、希望と勇氣をもち、困難や失敗を乗り越えて奮闘しやり抜くこと。</p> <p>(5) 真理を大切に、真理を探究して新しいものを生み出すよう努めること。</p> | <p>自主、自律、自由と責任</p> <p>節度、節制</p> <p>向上心、個性の伸長</p> <p>希望と勇氣 克己と強い意志</p> <p>真理の探究、創造</p> | | | |
| | B 主として人との関わりに關すること | <p>親切、思いやり</p> <p>感謝</p> <p>礼儀</p> <p>友情、信頼</p> <p>相互理解、寛容</p> | <p>(6) 相手のことを思いやり、進んで親切にすること。</p> <p>(7) 家族など日常生活を支えてくれている人や現在の生活を築いてくれた感謝の気持ちをもつて接すること。</p> <p>(8) 礼儀の大切さを知り、誰に対しても真心をもつて接すること。</p> <p>(9) 友達と仲よくし、助け合うこと。</p> <p>(10) 自分の考えや意見を相手に伝えるとともに、相手のことを理解し、自分と異なる意見も大切にすること。</p> | <p>(7) 誰に対しても思いやりをもち、相手の立場に立って親切にすること。</p> <p>(8) 日々の生活が家族や過去の多くの人の支え合いや助け合いの賜物であることを感謝し、それに応えること。</p> <p>(9) 時と場合をわきまえて、礼儀正しく真心をもつて接すること。</p> <p>(10) 友達と互いに信頼し、学び合ったり助け合ったり、異性についても理解しあひから人間関係を築いていくこと。</p> <p>(11) 自分の考えや意見を相手に伝えるとともに、謙虚な心をもち、広い心で自分と異なる意見や立場を尊重すること。</p> | <p>(6) 思いやりの心をもつて人と接するとともに、家族などの支えや多くの人の善意により日々の生活や現在の自分があることに感謝し、進んでそれに応え、人間愛の精神を深めること。</p> <p>(7) 礼儀の意義を理解し、時と場合に応じた適切な言動をとること。</p> <p>(8) 友誼の尊厳を重んじて心から信頼できる友達をもち、互いに励まし合ったり助け合ったりし、異性についての理解を深め、協力や信頼も経験しあひから人間関係を築いていくこと。</p> <p>(9) 自分の考えや意見を相手に伝えるとともに、それぞれの個性や立場を尊重し、いろいろなものの見方や考え方があつたことを理解し、寛容の心をもつて謙虚に他に学び、自らを高めようとする。</p> | <p>思いやり、感謝</p> <p>礼儀</p> <p>友情、信頼</p> <p>相互理解、寛容</p> | | |
| | | C 主として集団や社会との関わりに關すること | <p>規則の尊重</p> <p>公正、公平、社会正義</p> <p>勤労、公共の精神</p> <p>家族愛、家庭生活の充実</p> <p>よりよい学校生活、集団生活の充実</p> <p>伝統と文化の尊重 国や郷土を愛する態度</p> <p>国際理解 国際貢献</p> | <p>(11) 約束や社会のまじまりの意義を理解し、それらを守ること。</p> <p>(12) 誰に対しても分け隔てせず、公正、公平な態度で接すること。</p> <p>(13) 働くことの大切さを知り、進んでみんなのために働くこと。</p> <p>(14) 父母、祖父母を敬愛し、家族の幸せを求めて、進んで親に協力すること。</p> <p>(15) 先生や学校の人々を敬愛し、みんなが協力し合って楽しい学校や学校をつくること。</p> <p>(16) 我が国や郷土の伝統と文化を大切に、国や郷土を愛する心をもつこと。</p> <p>(17) 他国の人々や文化に親しみ、関心をもつこと。</p> | <p>(12) 法やまじまりの意義を理解し、それらを進んで守るとともに、他の権利を大切に、義務を果たすこと。</p> <p>(13) 誰に対しても差別をすることや偏見をもつことなく、公正、公平な態度で接し、正義の實現に努めること。</p> <p>(14) 働くことや社会に奉仕することの意義や責任をわがこととして、その意義を理解し、公共のために親しく働くこと。</p> <p>(15) 父母、祖父母を敬愛し、家族の幸せを求めて、進んで親に協力すること。</p> <p>(16) 先生や学校の人々を敬愛し、みんなが協力し合ってよりよい学校や学校をつくること。</p> <p>(17) 我が国や郷土の伝統と文化を大切に、先人の努力を知り、国や郷土を愛する心をもつこと。</p> <p>(18) 他国の人々や文化について理解し、日本人としての自覚をもつて国際親善に努めること。</p> <p>(19) 生命の尊厳を知り、生命あるものを大切にすること。</p> <p>(20) 自然のすばらしさや不思議さを感じ取り、自然や動植物を大切にすること。</p> <p>(21) 美しいものに触れ、すがすがしい心をもつこと。</p> <p>(22) よりよく生きる喜び</p> | <p>(10) 法やまじまりの意義を理解し、それらを進んで守るとともに、その権利を大切に、義務を果たすこと。</p> <p>(11) 正義と公正さを重んじ、誰に対しても公平に接し、差別や偏見のない社会の實現に努めること。</p> <p>(12) 社会参加の意義や社会活動の自覚を高め、公共の精神をもつてよりよい社会の實現に努めること。</p> <p>(13) 勤労の尊厳や意義を理解し、将来の生き方について考えを深め、勤労を通じて社会に貢献すること。</p> <p>(14) 父母、祖父母を敬愛し、家族の一員としての自覚をもつて充実した家庭生活を築くこと。</p> <p>(15) 教師や学校の人々を敬愛し、学級や学校の一員としての自覚をもち、協力し合ってよりよい校風をつくること。</p> <p>(16) 我が国や郷土の伝統と文化を大切に、社会に尽くした先人や高齢者に敬意の念を深め、地域社会の一員としての自覚をもつて郷土を愛し、進んで郷土の発展に努めること。</p> <p>(17) 優れた伝統の継承と新しい文化の創造に貢献すること。</p> <p>(18) 世界の日本人としての自覚をもち、他国を尊重し、国際的視野の中で、世界の平和と人類の発展に寄与すること。</p> <p>(19) 生命の尊厳について、その脆弱性や有限性なども含めて理解し、かけがえのない生命を尊重すること。</p> <p>(20) 自然のすばらしさや不思議さを知り、自然環境を大切にすることの意義を理解し、進んで自然環境の保護に努めること。</p> <p>(21) 美しいものに触れ、すがすがしい心をもつこと。</p> <p>(22) 人間には自らの弱さや弱さを克服する強さや高く生きようとする心があることを理解し、人間として生きることの喜びを見いだすこと。</p> | <p>運法精神、公徳心</p> <p>公正、公平、社会正義</p> <p>社会参加、公共の精神</p> <p>勤労</p> <p>家族愛、家庭生活の充実</p> <p>よりよい学校生活、集団生活の充実</p> <p>郷土の伝統と文化の尊重、郷土を愛する態度</p> <p>国際理解、国際貢献</p> <p>生命の尊厳</p> <p>自然環境</p> <p>感動、畏敬の念</p> <p>よりよく生きる喜び</p> | |
| | | | D 主として生命や自然 | <p>生命の尊厳</p> <p>自然環境</p> <p>感動、畏敬の念</p> <p>よりよく生きる喜び</p> | <p>(18) 生命の尊厳を知り、生命あるものを大切にすること。</p> <p>(19) 自然のすばらしさや不思議さを感じ取り、自然や動植物を大切にすること。</p> <p>(20) 美しいものに触れ、すがすがしい心をもつこと。</p> | <p>(19) 生命の尊厳について、その脆弱性や有限性なども含めて理解し、かけがえのない生命を尊重すること。</p> <p>(20) 自然のすばらしさや不思議さを知り、自然環境を大切にすることの意義を理解し、進んで自然環境の保護に努めること。</p> <p>(21) 美しいものに触れ、すがすがしい心をもつこと。</p> <p>(22) 人間には自らの弱さや弱さを克服する強さや高く生きようとする心があることを理解し、人間として生きることの喜びを見いだすこと。</p> | <p>(16) 我が国や郷土の伝統と文化を大切に、国や郷土を愛する心をもつこと。</p> <p>(17) 他国の人々や文化について理解し、日本人としての自覚をもつて国際親善に努めること。</p> <p>(18) 世界の日本人としての自覚をもち、他国を尊重し、国際的視野の中で、世界の平和と人類の発展に寄与すること。</p> <p>(19) 生命の尊厳について、その脆弱性や有限性なども含めて理解し、かけがえのない生命を尊重すること。</p> <p>(20) 自然のすばらしさや不思議さを知り、自然環境を大切にすることの意義を理解し、進んで自然環境の保護に努めること。</p> <p>(21) 美しいものに触れ、すがすがしい心をもつこと。</p> <p>(22) 人間には自らの弱さや弱さを克服する強さや高く生きようとする心があることを理解し、人間として生きることの喜びを見いだすこと。</p> | <p>生命の尊厳</p> <p>自然環境</p> <p>感動、畏敬の念</p> <p>よりよく生きる喜び</p> |

アンドレ、サバイユ、ニコライ、わがなつかしき友よ。二十年ぶりの再会を楽しみにしている。愛しき故郷は変わらずにあるだろうが。明後日の十八日の夕刻到着予定。二十年後の今もわたしを友としてむかえてくれることを確信している。あの思い出の村はずれのかしの木の下で。故郷での幼き日々を共にした友へ。 ロレンズより

「どうする。」

「どうするつて。その話は本当のことなのかい。」

「まちがいない。三日前、この町に刑事がやってきて、ロレンズという男について聞いていた。働いていた会社の金を持ち逃げしたらしいんだ。ここに立ち寄ったら知らせてほしい、そう確かに言つてたよ。」

「しかし、警察に追われていながら平気で、明後日この村に帰るつて電報を打つてくるなんてことあるかな。」

「ぼくもそう思う。絶対何かのまちがいに決まつてるよ。」

「ぼくだつてそう思うよ。だけど、刑事がそう言つていたのは確かなんだ。」

「信じられないなあ……。あいつがそんなことするなんて。やむにやまれぬ事情があつてのことなんだろうな。きっとそうだよ、きっと。」

「村はずれのかしの木の下で会いたいなんで、考えようによつては変だね。助けてほしいつてことだろうか。」

「しかし、かれが会いに来たらどうしたらいいだろう。」

約束の日、三人はまだ日が高いころから、約束のかしの木の下に集まり、ロレンズの来るのを待った。三人は、村に続く道のかなたに目をこらしたり、あたりをうろついたり、ため息をついたりして時を過ごした。やがて日がかたむき、かしの木と三人のかげが長くのび始めた。しかし、待ち望むロレンズは現れなかった。

「おそいなあ。もしかして途中でつかまつて……。」

「そのほうがよいのかもしれない。こんな状態では会いたくないからな。」

三人とも複雑な思いにとらわれ、しだいに日数が減つてきた。重苦しいふん囲気を破るかのように、ニコライは言った。

「もうおそいし帰ろうか。来るとすればだれかの家だろうから。」

「しかし、もし夜中にたずねてきたらどうしよう。」

しばらくちんもくがあつた後、アンドレが口を開いた。

「ぼくは、お金を持たせてだまつてにがしてやる。いけないことかもしれないけど。」

サバイユが続けた。

「ぼくは、ロレンズに自首をすすめる。やつぱり罪は罪だよ。だけど、本人が納得しない場合は、そのままにがしてやつたほうがいいと思う。」

ニコライは、苦しい表情で思いつめたように話し始めた。

「ぼくもロレンツに自首をすすめる。本人が納得したらいつしよに付きそって行く。でもだめだったら、ぼくは警察に知らせるほうがいいと思う。」

「それはかわいそうじゃないか。何もぼくたちがそんなことをしなくても、どこかでつかまれば同じだろう。どうして、そんな友達を裏切るようなことができるのか。」

アンドレとサバイユは、おどろいたように言った。

「友達をかばってにがしてやるのも友達かも知れない。でも、そのことでびくびくしながらにげ続けたとしたら、かえつて友達を苦しませることになる、とぼくは思う。」

「ニコライの言うことは分かるよ。だけどぼくには出来ないよ。ここまでにげて来たっていうのは、よほどの事情があるんだろうから。」

サバイユがそう言い終わると、三人はだまりこんだまま家路についた。

結局その夜、ロレンツはだれのところにも来なかった、三人の友は、それぞれねむられないまま夜を明かしてしまった。

※

※

※

翌朝、とつ然三人は町の警察署から、すぐに来てくれるようにという連絡を受けた。三人は、それぞれきん張した顔で警察署にやつて来た。

「きみたちに、ぜひわたしの立ち会いのもとで話をしたいという人がいるので、来てもらったんだが……」

応対に出た署長が言った。やがて部屋のおくの方から男が現れた。

「ロレンツ！」

三人はいつせいに声をあげた。

「昨日はすまなかった。となりの町まで来たとき、刑事がいきなりぼくをここに連れて来たものだから、連らくがつけられなかつたんだ。」

「わたしたちの手ちがいで、大へんご迷わくをがけてしまつて……」

署長は深々と頭を下げた。

「まちがいだつたんだね！」

「人ちがいだよ。ぼくは無実だよ。」

「本当に申しわけない。昨日の夜中に、私の所に連らくがあつてね。」

署長は頭をかいた。三人はとにかくほつとした。

アンドレは、ほほをゆるめながらロレンツのかたに手をかけた。

「よかつた、よかつた。きみは絶対にそんなことはしないと思つていたよ。」

「少しは、心配もしたけどさ。」

四人は大笑いしながら、あらんかぎりの力でだきしめ合つた。

その夜、再開を祝つて町の酒場へと向かつた。思い出話はずきることがなかつた。しかし、あのかしの木の下で話し合つたことは、三人とも口にしなかつた。酒場を出た後、それぞれに、もしロレンツが本当に罪を犯して帰つて来ていたとしたら、自分は友人としてどうすべきだつたのが、どうしていただろうか、とあらためて考え始めた。

(武田 正樹)

道徳教育の進め方 京都式ハンドブック

規範意識や人を思いやり尊重する心など
豊かな人間性をはぐくむために



平成25年3月



京都府教育委員会

高等学校における道德教育の展開

Q 高等学校における道德教育の考え方とは何ですか？

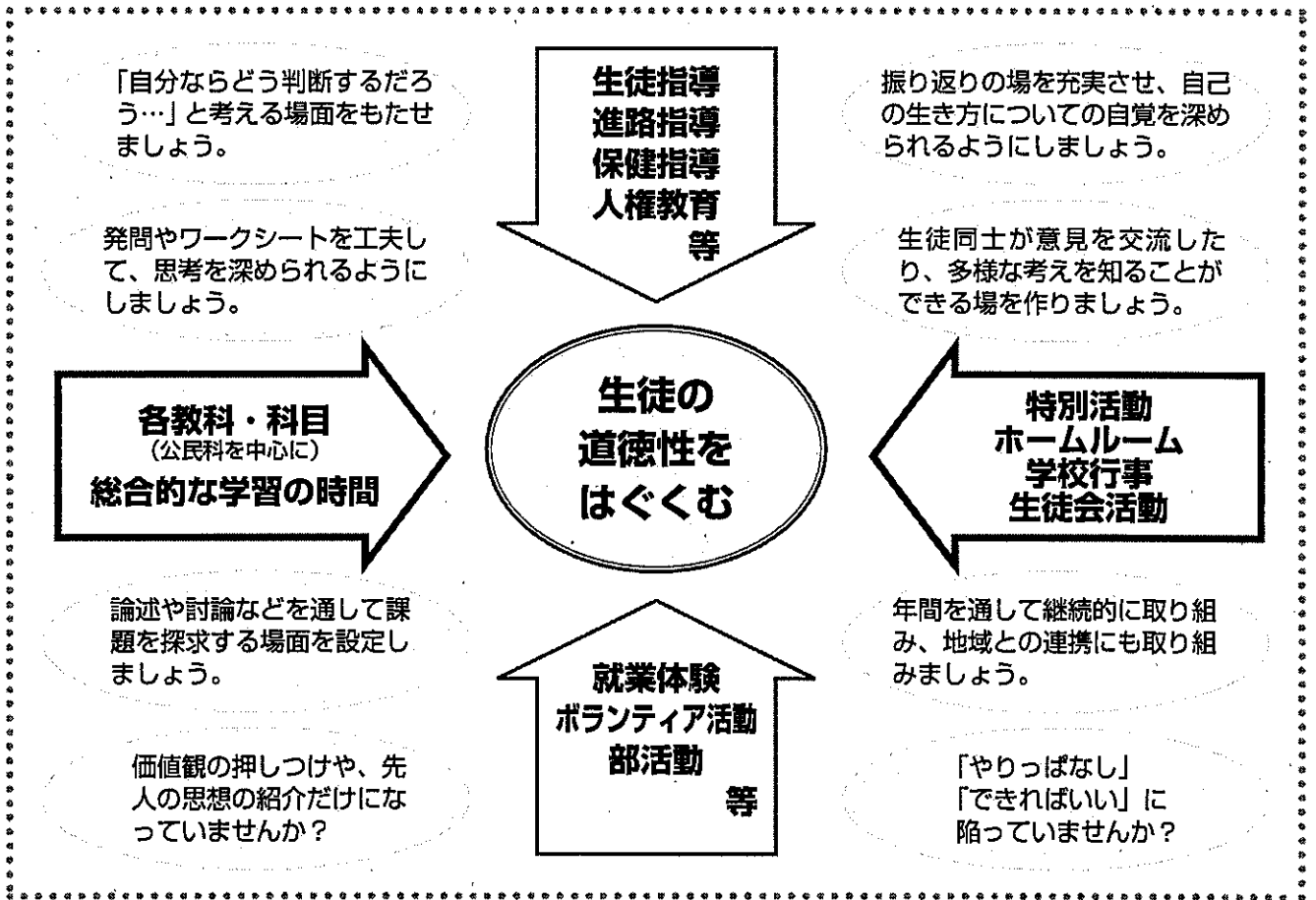
A 人間としての在り方生き方に関する教育を、学校の教育活動全体を通じて行います。

高等学校においては、道德の時間は設けられていませんが、公民科やホームルーム活動を中心に各教科・科目の特質に応じ、学校の教育活動全体を通じて、生徒が人間としての在り方生き方を主体的に探求し豊かな自己形成ができるよう、適切な指導を行います。

小・中学校における道德教育も踏まえつつ、生徒の発達の段階にふさわしい高等学校における道德教育を行うことが大切です。

Q では、どうやって高等学校での道德教育を進めればよいでしょう？

A 様々な体験や思索の機会を通して、生徒自らが考え、自覚を深めて自己実現に資するように指導を工夫します。



高等学校における道德教育

Q 従来の教育活動をどのように工夫・改善すればよいですか？

A 今までの教育活動を、道德教育の視点から見直してみましょう。

- 1 学校の教育目標や育てたい生徒像から、自校の道德教育の重点目標を明確にします。
- 2 各教科、分掌等が連携し、重点目標を意識した道德教育の全体計画を作成します。
- 3 教職員全員でその内容を共有し、道德教育の重点目標を意識した教育活動を、組織的・計画的に実践します。

Q 高等学校における道徳教育はどのように実践すれば良いですか？

A 学校の教育活動全体を通じて、各教科・科目、総合的な学習の時間及び特別活動のそれぞれの特質に応じて実施します。

まず、日常の様々な教育活動の場面において、人間としての在り方生き方に関する教育を意識的・意図的に実施するという意識をもつことが大切です。従来の教育活動でも実践してきたことを、学校の全体計画に沿って、関連する道徳的価値を明確にした上で、日常の教育活動の一局面に組織的・計画的に組み込んでいくことが求められます。

高等学校における道徳教育は、学校の教育活動全体を通じて、各教科・科目、総合的な学習の時間及び特別活動のそれぞれの特質に応じて実施するものですが、特に公民科の「現代社会」と「倫理」、特別活動は中核的な指導の場面として重視されています。この他の各教科・科目においても、各教科・科目の目標や内容と「人間としての在り方・生き方についての自覚を深める」ことの関連が見られます。

そこで、ここでは、授業の一場面での「人間としての在り方生き方について考える」事例と、特別活動等での実践例を紹介します。なお、学校の教育活動全体を通じて行う道徳教育についての考え方は、「第1章1の(6)道徳教育はいつどこで行えばよいのだろう」(P7)を参考にしてください。

公民科

◇教科の目標◇

「広い視野に立って、現代の社会について主体的に考察させ、理解を深めさせるとともに、人間としての在り方生き方についての自覚を育て、平和で民主的な国家・社会の有為な形成者として必要な公民としての資質を養う。」

<「現代社会」と道徳教育との関連>

○現代社会の諸課題を取り上げて考察させ、理解を深めさせるとともに、議論などを通して自分の考えをまとめたり、説明・論述するなど課題を探究させる学習を行い、人間としての在り方生き方についての学習の充実を図る。

<実践例>

科目・題材 現代社会 「地球温暖化問題への取組」

内容

地球環境問題の中でも特に我々の産業活動との関連が深く、深刻な影響が懸念されているのが温暖化である。これまで気候変動枠組条約の締約国会議で二酸化炭素の削減目標が定められ、国際社会は温暖化対策の第一歩を歩み出した。

しかし、発展途上国に削減義務はなく、アメリカが条約から離脱するなど世界的な取組が大きく進展しにくい現状がある。また、有限である資源の有効活用・省資源・省エネルギーをどのように推進するか、いかに循環型社会を形成していくかも現在の私たちには求められており、未来の人々に安心できる環境を残していく責任がある。そのために、世界の国々が自国の利害を越えて協力をすることが不可欠である。そして、一人一人が地球温暖化問題を身近な問題と認識し、できることを主体的に実践することが求められている。

(在り方生き方に関する教育の展開)

学習を進める中で、地球温暖化をグローバルな視点で考えさせる。また、今の日本の豊かな生活の維持や更なる豊かさの追求と、地球温暖化問題とのつながりも含めて、「私たちはどうすべきか」「自分に何ができるか」を考えさせる。

(関連する道徳的価値)

○環境保全 ○より良い社会の実現 ○国際的視野

(考えさせる発問の例)

- 日常生活において、地球温暖化防止のために自分にできることは何でしょう。
- 将来の生き方・働き方などと環境問題との関連を考えてみましょう。
- 他国で暮らしている立場になって、これからの地球環境について考えてみましょう。

国語科

◇教科の目標◇

「国語を適切に表現し的確に理解する能力を育成し、伝え合う力を高めるとともに、思考力や想像力を伸ばし、心情を豊かにし、言語感覚を磨き、言語文化に対する関心を深め、国語を尊重してその向上を図る態度を育てる。」

<道徳教育との関連>

- 国語力や国語科の活動は道徳教育を進めていく上での基盤となり、道徳的心情や道徳的判断力を養う基本となる。
- 伝統と文化を尊重し、我が国と郷土を愛し、個性豊かな文化の創造を図る態度を育成することにつながる。

<実践例>

科目・題材 現代文 「魯迅 藤野先生」

内容

中国からの留学生である「私」は仙台で医学を学び、そこで解剖学の藤野先生から個人的なノートの添削など親切な指導を受けて感激する。しかし、日本人学生から不愉快な思いを受けさせられた「私」は医学の勉強をやめて仙台を去ることになった。別れに際して藤野先生は「惜別」と書かれた写真を「私」に与えた。その写真と文字は、その後の「私」に強い勇気を与え続け、藤野先生への崇敬の思いは今も続いている。

(在り方生き方に関する教育の展開)

この小説を通じて、人間として誠実に他者に向かい合っていくことについて思考を深めさせる。さらに、祖国を異にする人間同士が互いの理解を真に深めていく方途について考えさせる。

(関連する道徳的価値)

- 国際理解、異文化の尊重
- 思いやり、共感
- 自他の尊重、多様性の尊重
- 自主・自律、誠実

(考えさせる発問の例)

- あなたが藤野先生だったら、どのように考え、どうしたでしょうか。
- なぜ日本人学生は「私」に対して不愉快な行動をとったのでしょうか。あなたなら、普段から自分や自分の周りに対してどのように考え、行動していきたいと思いますか。
- 藤野先生と「私」のように国境を越えて互いに理解を深め合うために、あなたにできることはどんなことだと思いますか。

数学科

◇教科の目標◇

「数学的活動を通して、数学における基本的な概念や原理・法則の体系的な理解を深め、事象を数学的に考察し表現する能力を高め、創造性の基礎を培うとともに、数学のよさを認識し、それらを積極的に活用して数学的論拠に基づいて判断する態度を育てる。」

<道徳教育との関連>

- 事象を数学的に考察し筋道を立てて考え、表現する能力を高めることは、道徳的判断力の育成に資する。
- 数学を積極的に活用して数学的論拠に基づいて判断する態度を育てることは、工夫して生活や学習をしようとする態度を育てることに資する。

<実践例>

科目・題材 数学 I 「数と集合」

内容

例えば、命題「 $x > 2$ ならば $x > 0$ である。」について、数の集合 $A = \{x \mid x > 2\}$ 、 $B = \{x \mid x > 0\}$ を考え、 $A \subset B$ であることを数直線を利用して理解させ、命題の真偽を扱う。

(在り方生き方に関する教育の展開)

この学習を通して、論理的に考える方法を身につけることにより、主体的に判断する力を養う。また、ものごとを多面的・統一的にみることや、与えられた条件や情報を総合的に判断して、答えを吟味することの必要性に気づかせる。

(関連する道徳的価値)

- 公正・公平
- 真理の希求
- よりよい社会の実現

(考えさせる発問の例)

- なぜ真と考えましたか？ なぜ偽と考えましたか？ その理由を述べられますか。
- 解を、すべての条件や情報を考えに入れて判断できていますか。

保健体育科

◇教科の目標◇

「心と体を一体としてとらえ、健康・安全や運動についての理解と運動の合理的、計画的な実践を通して、生涯にわたって豊かなスポーツライフを継続する資質や能力を育てるとともに健康の保持増進のための実践力の育成と体力の向上を図り、明るく豊かで活力ある生活を営む態度を育てる。」

<道徳教育との関連>

- 公正、協力、責任、参画などに対する態度の育成に資する。
- 粘り強くやり遂げる、ルールを守る、集団に参加し協力する、といった態度が養われる。
- 健康の大切さを知り、生涯を通じて自らの健康を適切に管理し、改善することにつながる。

<実践例>

科目・題材 体育 「体づくり運動・体力を高める運動」

内容

ストレッチの方法や実施の際のポイントを学び、自己の体力に応じたストレッチメニューを選び、実践する。また、総合的な体力を高めるための運動について、目的に応じて負荷の強度や量、運動の構成を考え、実践する。

(在り方生き方に関する教育の展開)

これらの学習を通して、望ましい生活習慣の在り方や、体力を高めるための運動の大切さを考えさせる。

また、体力差に配慮しながら協働して活動する方法について考えさせることを通して、他者と協力し合うことや、集団の中の自分の在り方について考えを深めさせる。

(関連する道徳的価値)

- 望ましい生活習慣の確立
- 向上心
- 友情、励まし合い、高め合い、思いやり
- 集団の一員としての役割、責任の自覚

(考えさせる発問の例)

- 日常生活に、これらのストレッチや体力を高める運動を取り入れることで、あなたの生活はどのように変わるとおもいますか。
- 体力や生活習慣が異なるみなさんが、それぞれ自分の力を発揮して頑張ることができる雰囲気づくりをするためには、どのようにしたらよいでしょうか。

芸術科

◇教科の目標◇

「芸術の幅広い活動を通して、生涯にわたり芸術を愛好する心情を育てるとともに、感性を高め、芸術の諸能力を伸ばし、芸術文化についての理解を深め、豊かな情操を養う。」

<道徳教育との関連>

- 芸術を愛好する心情を育て、感性を高めることは、美しいものや崇高なものを尊重することにつながる。
- 芸術文化についての理解を深め、豊かな情操を養うことは道徳性の基盤の育成に資する。

<実践例>

科目・題材 音楽Ⅰ 「ベートーベンの生涯」

内容

ベートーベンが晩年だんだんと聴力を失っていったことに触れ、音楽家にとって命ともいえる聴力を失うということはどういうことなのかを考えさせる。また、その状況でも作曲を続けることができた精神力の強さや、音楽にかける思いに迫る。

(在り方生き方に関する教育の展開)

この学習を通して、逆境に負けず自己の生き方を貫き通す強い意志や芸術を愛する心について、考えを深めさせる。

(関連する道徳的価値)

- 希望、勇気、強い意志、努力
- 向上心
- 美しいものに感動する豊かな心

(考えさせる発問の例)

- 音楽家として必要な聴力を失っていく中でも作曲を続けることができたのはなぜだと思いますか。

外国語科

◇教科の目標◇

「外国語を通じて、言語や文化に対する理解を深め、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度の育成を図り、情報や考えなどを的確に理解したり適切に伝えたりするコミュニケーション能力を養う。」

<道徳教育との関連>

○世界中の中の日本人としての自覚をもち、国際的視野に立って、世界の平和と人類の幸福に貢献することにつながる。

<実践例>

科目・題材 コミュニケーション英語Ⅰ
「Twice Bombed, Twice Survived」(ELEMENT English Communication Lesson 4)

内容

2009年、アメリカのオバマ大統領はブラハの演説で、米国は核兵器のない世界の平和を追求していくという決意を述べた。「私たちは主張しなければいけません、「イエス・ウィー・キャン」と。」同年、彼はノーベル平和賞を受賞した。

山口 隼(つとむ)さんはこの演説を聞いてオバマ大統領に手紙を送った。彼は広島と長崎の両市で被爆した「二重被爆者」であり、著書、短歌、スピーチなどを通して反核を訴え続けてきた。オバマ大統領の決意に感動し、「自分もまた、残りの人生をかけて核兵器の廃止を訴える。」との決意を綴ったのである。

(在り方生き方に関する教育の展開)

体験者の思いを読むことで、平和な世界とはどのようなものかを気付かせるきっかけとする。また、平和な世界を創るために「自分自身ができること」について考えを深めさせる。

(関連する道徳的価値)

- 人類愛、平和
- 正義
- 理想の実現
- 生命の尊重

(考えさせる発問の例)

- 平和な世界とはどのようなものだと思いますか。
- 核兵器や、戦争とはどのようなものだと思いますか。
- 人はなぜ、ときに国籍、人種、宗教の違いが原因で憎しみ合うのだと思いますか。
- 平和な世界の実現のために、あなたにはどのようなことができると思いますか。

情報科

◇教科の目標◇

「情報及び情報技術を活用するための知識と技能を習得させ、情報に関する科学的な見方や考え方を養うとともに、社会の中で情報及び情報技術が果たしている役割や影響を理解させ、社会の情報化の進展に主体的に対応できる能力と態度を育てる。」

<道徳教育との関連>

○情報社会で適正な活動を行うための基になる考え方と態度を身に付けさせ、情報社会に参画する態度を育成することにつながる。

<実践例>

科目・題材 社会と情報 「インターネット上の個人の責任」

内容

インターネット上の電子掲示板には、世界中の誰でもが自由に書き込むことができ、読むことができるという特徴がある。これは、個人の発言の場所が増えるという長所ではあるが、一方で、この特徴を悪用し、電子掲示板上で他人を特定できる形で誹謗中傷する者も後を絶たず、社会問題になっている。

また、インターネット上で社会的ネットワークを構築するサービスである SNS でのトラブルも目立ってきている。特定のメンバーであるという安心感から、現実世界と同じ気軽さでメッセージのやり取りが行われ、誹謗中傷や個人情報の流出などの弊害も非常に大きいものである。

(在り方生き方に関する教育の展開)

これらの学習を通して、インターネット上の個人の責任、インターネット使用上のマナーや関連法等の遵守について考えさせる。また、人権尊重や他者への配慮について、思考を深めさせる。

(関連する道徳的価値)

- 礼儀、時と場に応じた適切な言動
- 思いやり
- 人格の尊重
- 規範意識

(考えさせる発問の例)

- なぜ、電子掲示板や SNS では、他人を誹謗中傷するような書き込みをする人が出てくるのでしょうか。
- なぜインターネット上に気軽に個人情報を掲載すると問題があるのでしょうか。
- インターネット上のサイトへの書き込み方として、あなたが気をつけたいのはどのようなことですか。

特別活動

◇特別活動の目標◇

「望ましい集団活動を通して、心身の調和のとれた発達と個性の伸長を図り、集団や社会の一員としてよりよい生活や人間関係を築こうとする自主的、実践的な態度を育てるとともに、人間としての在り方生き方についての自覚を深め、自己を生かす能力を養う。」

<指導に当たっての配慮>

○社会の一員としての自己の生き方を探求するなど、人間としての在り方生き方についての指導がホームルーム活動を中心として、特別活動の全体を通じて行われるようにする。またその際、他の教科、特に公民科や総合的な学習の時間との関連を図るようにする。

<実践例>

活動場面・題材 LHR 「文化祭の事後指導」

| | |
|------------|--|
| 内 容 | <p>文化祭終了後、ホームルームの取り組みについて、アンケート形式の質問に答えさせることで、自分自身及びホームルームの活動状況を振り返らせる。さらに、アンケートの結果について班ごとに話し合いをさせた後、ホームルーム全体で意見交流を行い、今後のホームルーム活動の在り方について考えを深めさせる。</p> <p>*アンケート</p> <ul style="list-style-type: none"> ○あなたはホームルームの取り組みに積極的に参加できましたか。 ○この取り組みを通じて、あなた自身の課題は何でしたか。 ○あなたは今後のホームルーム活動にどのようにかかわろうと考えますか。 ○ホームルーム全体の取組状況について、成果と課題をあげてください。 <p>*班討議</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ホームルームの取組状況について、成果と課題を整理しよう。 ○ホームルーム活動を充実させるための具体的な方策を検討しよう。 |
|------------|--|

(関連する道徳的価値)

- 集団生活の向上
- 学級の一員としての自覚
- 信頼、高め合い、協力
- 自主・自律、責任

(指導のポイント)

- 行動を振り返るとき、そのときどんな気持ちだったのか、なぜそう思ったのか等、自己を見つめることができるようにする。
- 集団や社会の一員として、これからの自己の在り方生き方について、思考を深められるようにする。

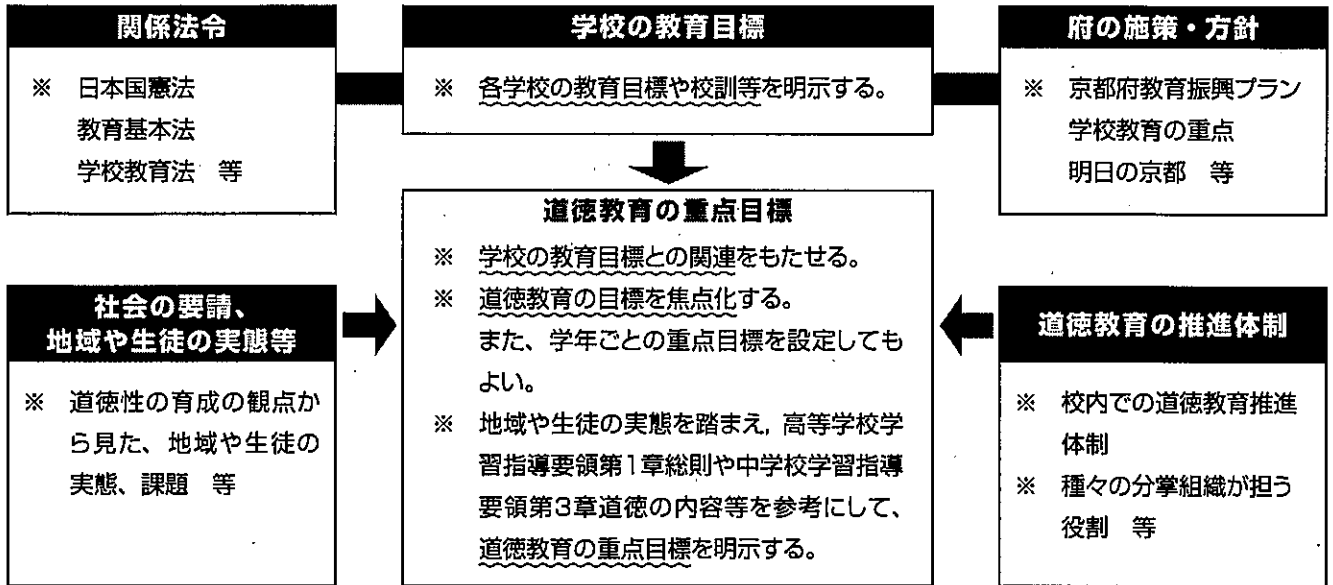
Q 道徳教育の全体計画はどのように作成しますか？

A 学校の教育目標や育てたい生徒像から、道徳教育の目標を焦点化し、学校の教育活動全体を見渡して作成します。

道徳教育全体計画

(平成〇〇年度入学生)

京都府立〇〇高等学校[〇〇分校・〇〇課程]



各教科・科目、総合的な学習の時間、特別活動における関連

※ 高等学校学習指導要領解説総則編や各教科等ごとの解説中の道徳教育に関する記述などを参考にしつつ、中核的な指導場面である公民科の「現代社会」及び「倫理」、特別活動の〔ホームルーム活動〕を始めとして、各教科、総合的な学習の時間、特別活動における道徳性の育成にかかわる内容を記述する。

各教科の授業を通して、どのように「在り方生き方に関する教育」を行うか、具体的に記述する。

(記入例)

- 国語：文学作品の読解や表現活動を通して…
- 地歴：日本や世界の歴史・地理についての…
- 公民：社会の在り方や人間の在り方を考察する…

- 家庭：主体的に生活を創造する学習を通して…
- 情報：情報社会で適正な活動を行うための考察を通して…
- 農業：生物の育成や、農業の社会的役割を学ぶことを通して…
- 産業社会と人間：産業社会における自己の将来を考慮…
- 総合的な学習の時間：学び方や物の見方を養う活動を通して…

特別活動等を通して、どのように「在り方生き方に関する教育」を行うか、具体的に記述する。

(記入例)

- 学級活動：ホームルーム活動を通して望ましい人間関係を確立し…
- 生徒会活動：自主的・自発的な活動を通して…
- 学校行事：文化祭、体育祭などの行事への取り組みを通して…

他に、就業体験、ボランティア活動のような、各学校で重点的に取り組んでいる活動などについても記述する。

生徒指導における関連、学校の環境の充実

※ 生徒指導等生活全般における関連、教育環境にかかわる内容 等

家庭・地域との連携、異校種との連携

※ 保護者や地域の人々の積極的な参加を得る方策
 ※ 家庭・地域との連携、近隣の中学校等の異校種との連携 等

現在の高等学校の教科・科目構成（全学科共通教科等）

| 教科 | 科目 | 標準 単位数 | 必履修 科目 |
|----------|-------|-----------|--------------------------------|
| 国語 | 国語総合 | 4 | ○2単位まで減可 |
| | 国語表現 | 3 | |
| | 現代文A | 2 | |
| | 現代文B | 4 | |
| | 古典A | 2 | |
| | 古典B | 4 | |
| 地理 歴史 | 世界史A | 2 | ┌ ○ └ ┌ ○ └ ┌ └ |
| | 世界史B | 4 | |
| | 日本史A | 2 | |
| | 日本史B | 4 | |
| | 地理A | 2 | |
| | 地理B | 4 | |
| 公民 | 現代社会 | 2 | 「現代社会」又は 「倫理」・「政治・経済」 |
| | 倫理 | 2 | |
| | 政治・経済 | 2 | |
| 数学 | 数学Ⅰ | 3 | ○2単位まで減可 |
| | 数学Ⅱ | 4 | |
| | 数学Ⅲ | 5 | |
| | 数学A | 2 | |
| | 数学B | 2 | |
| | 数学活用 | 2 | |
| | 理科 | 科学と人間生活 | |
| 物理基礎 | | 2 | |
| 物理 | | 4 | |
| 化学基礎 | | 2 | |
| 化学 | | 4 | |
| 生物基礎 | | 2 | |
| 生物 | | 4 | |
| 地学基礎 | | 2 | |
| 地学 | | 4 | |
| 理科課題研究 | | 1 | |

| 教科 | 科目 | 標準 単位数 | 必履修 科目 |
|-----------|----------------|-----------|--|
| 保健 体育 | 体育 | 7~8 | ○ |
| | 保健 | 2 | ○ |
| 芸術 | 音楽Ⅰ | 2 | ┌ └ ○ ┌ └ ┌ └ ┌ └ ┌ └ |
| | 音楽Ⅱ | 2 | |
| | 音楽Ⅲ | 2 | |
| | 美術Ⅰ | 2 | |
| | 美術Ⅱ | 2 | |
| | 美術Ⅲ | 2 | |
| | 工芸Ⅰ | 2 | |
| | 工芸Ⅱ | 2 | |
| | 工芸Ⅲ | 2 | |
| | 書道Ⅰ | 2 | |
| 書道Ⅱ | 2 | | |
| 書道Ⅲ | 2 | | |
| 外国語 | コミュニケーション英語基礎 | 2 | ○2単位まで減可 |
| | コミュニケーション英語Ⅰ | 3 | |
| | コミュニケーション英語Ⅱ | 4 | |
| | コミュニケーション英語Ⅲ | 4 | |
| | 英語表現Ⅰ | 2 | |
| | 英語表現Ⅱ | 4 | |
| 英語会話 | 2 | | |
| 家庭 | 家庭基礎 | 2 | ┌ ○ └ |
| | 家庭総合 | 4 | |
| 情報 | 生活デザイン | 4 | ┌ ○ └ |
| | 社会と情報 情報の科学 | 2 | |
| 総合的な学習の時間 | | 3~6 | ○ |

高等学校における教科・科目の現状・課題と
今後の在り方について（検討素案）

目 次

公民教育・・・・・・・・・・ 2

歴史教育・・・・・・・・・・ 20

地理教育・・・・・・・・・・ 35

理数教育・・・・・・・・・・ 43

国語教育・・・・・・・・・・ 51

外国語教育・・・・・・・・・・ 65

情報教育・・・・・・・・・・ 99

公民教育に関する現状について

高校生・若者の意識や実態

①積極的に社会参加する意欲が国際的に見て低い

他人に迷惑をかけてはならないという意識が高い反面、自分の力で世の中を変えられると考えている若者が、諸外国に比べて少ない。(青少年の意識調査)
衆議院選挙の投票率では、20代の投票率は60代の半分以下。

②理念や概念の理解、情報活用能力が十分身につけていない

【平成17年度教育課程実施状況調査(倫理、政治・経済)】
・政治や経済、現代社会の諸課題について、基礎的な理念や概念を問う問題への正答率が低い。特に記述式の問題の無答率が高い。
・先哲の基本的な考え方を手掛かりとして自分自身の考え方や自分の体験と関連付けて自己の生きる課題として考えさせるような問題の正答率が低い。
・有用な情報を主体的に選択して活用したり、課題を考察した過程や結果を様々な方法で適切に表現したりする力が十分に身につけていない。

③政治や経済の仕組み、働く意義等を学ぶことへの関心は高い

・政治・経済についての学習が大事だと思っている生徒の割合は国語や外国語に次いで高い。
・若年層の就労者の多くは、働く上での権利・義務や働くことの意義を学校教育でもっと学ぶことが大切だと考えている。(連合の意識調査)

公民科教育の現状

・「課題解決的な学習を取り入れた授業を行っている」「調べたことを発表させる活動を取り入れた授業を行っている」と考えている教員は少ない。【平成17年度教育課程実施状況調査(倫理、政治・経済)教員質問紙より】

規範等に関する青少年の意識

◆日本の若者は、他人に迷惑をかけてはならないという意識は相対的に高いが、積極的に困っている人を助けることの意識やボランティア活動への興味はやや低いというデータがある。

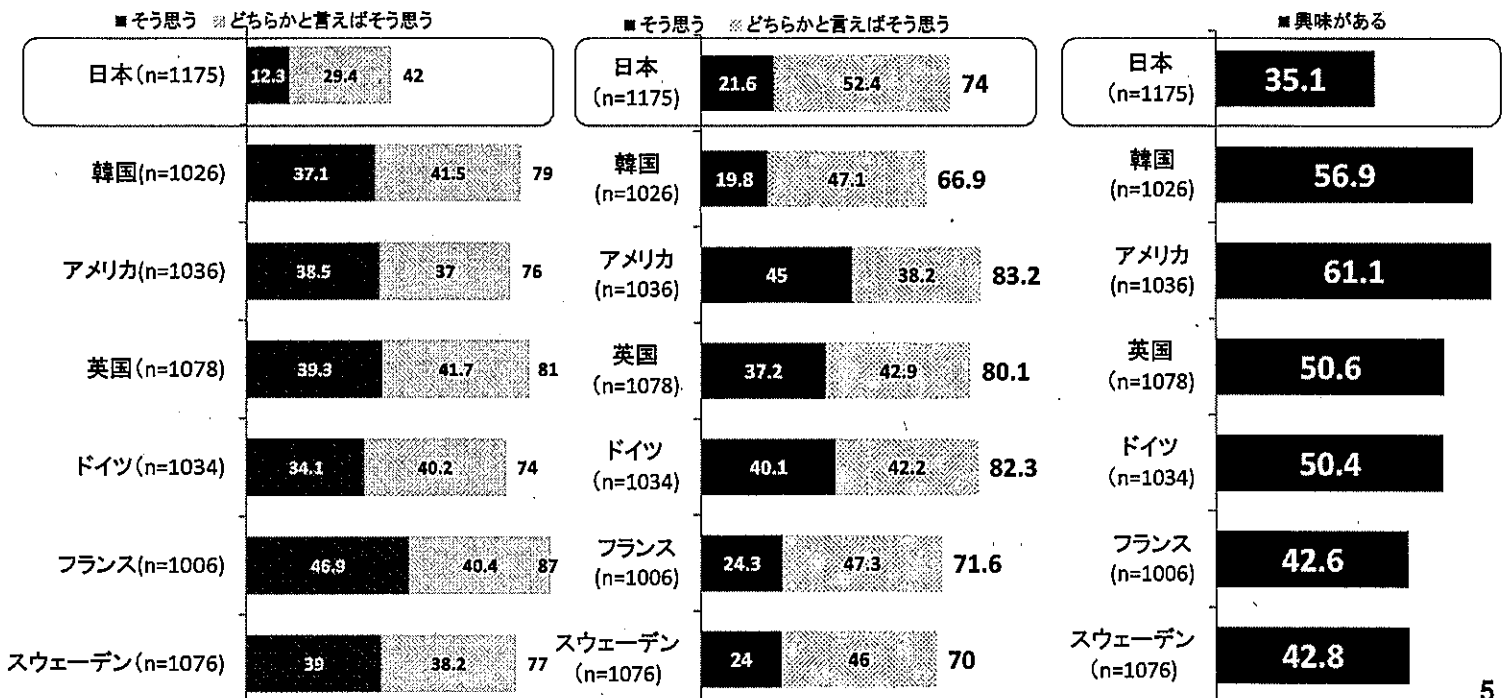
(出典)内閣府「我が国と諸外国の若者の意識に関する調査」(平成25年度実施)より

※各国13歳から29歳までの男女が対象。

「他人に迷惑をかけなければ、何をしようと個人の自由だ」
(そう思う、どちらかと言えばそう思うの合計%)

「困っている人を見たら、頼まれなくても助けてあげるべきだ」
(そう思う、どちらかと言えばそう思うの合計%)

ボランティア活動に興味があるか
(「ある」という回答の割合%)



若年層就労者の意識

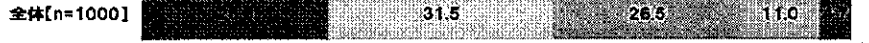
◆若年層の就労者の多くは、働く上での権利・義務や働くことの意義を学ぶことが大切だと考えている。

◆労働教育に関する意識（各単一回答形式）

＜働く上での権利・義務を、学校教育でもっと学びたかった＞



＜働くことの意義を、学校教育でもっと学びたかった＞



＜学校で労働に関することを学ぶことで、親子の会話のきっかけは増える＞



※非常にそう思う ※ややそう思う ※どちらともいえない ※あまりそう思わない ※全くそう思わない

| 同意率 | 不同意率 |
|------|------|
| 68.7 | 10.7 |
| 57.8 | 15.7 |
| 48.5 | 19.6 |

◆仕事に対する意識（各単一回答形式）

＜働く上での権利・義務を理解すれば、いまよりも安心して働ける＞



＜働く上での権利・義務を理解すれば、就業形態が多様化した社会でも安心して働ける＞



※非常にそう思う ※ややそう思う ※どちらともいえない ※あまりそう思わない ※全くそう思わない

| 同意率 | 不同意率 |
|------|------|
| 71.8 | 7.7 |
| 64.3 | 10.8 |

連合（日本労働組合総連合会）「学校教育における『労働教育』に関する調査」
モバイルリサーチ（携帯電話によるインターネットリサーチ）により、2014年10月3日～10月8日の6日間において実施し、現在就業中の18歳～25歳の男女（アルバイト学生は除く）1,000名の有効サンプルを集計。（調査協力機関：ネットエイジア株式会社）

高等学校における公民教育の現状

高等学校教育課程実施状況調査(H17)【政治・経済】

評価の観点別に見た分析

（通過率が設定通過率を上回る・下回る問題数）

| 評価の観点 | 問題数 | 上回ると考えられるもの | 同程度と考えられるもの | 下回ると考えられるもの |
|------------|-----|-------------|-------------|-------------|
| 関心・意欲・態度 | 11 | 1<9.1%> | 3<27.3%> | 7<63.6%> |
| 思考・判断 | 11 | 3<27.3%> | 5<45.5%> | 3<27.3%> |
| 資料活用の技能・表現 | 19 | 2<10.5%> | 2<10.5%> | 15<78.9%> |
| 知識・理解 | 14 | 4<28.6%> | 1<7.1%> | 9<64.3%> |

（注）複数の評価の観点にまたがる問題があるため、前記の表の問題合計数と異なる。

政治・経済に対する有用性等について

| 質問事項 | 肯定的な回答の割合 | 否定的な回答の割合 |
|--|--------------|--------------|
| 「政治・経済の勉強が好きだ」 | 39.9%<37.4%> | 54.5%<56.3%> |
| 「政治・経済の勉強は大切だ」 | 82.7%<82.2%> | 13.1%<13.1%> |
| 「政治・経済の勉強は、入学試験や就職試験に関係なくとも大切だ」 | 77.2%<76.8%> | 17.2%<17.3%> |
| 「政治・経済を勉強すれば、私は、社会の一員としてよりよい社会を考えることができるようになる」 | 69.1%<65.0%> | 21.8%<24.4%> |

※< >内は平成15年度調査結果

イングランドの教科書 "This is citizenship 2"

出典: 「This is citizenship 2」 HODDER EDUCATION

CENTRAL GOVERNMENT AND PARLIAMENT

1 Political parties

A political party is an organised group of people with a leader and members. It stands for something - it has a set of views that the members agree with. Parties put up candidates at elections so that these people can be voted into positions of power, nationally or locally. People join a political party because they agree with what it stands for. They also want to help the party to win elections and put their ideas into practice.

Activity

You are going to create your own political party.

1 Work in groups of four or five. Imagine that you want to make the country a better place in which to live. What would you change? In your group, choose three things that you would like to change. You can get some ideas from this page, or you can come up with some of your own.

Clean up the environment

Ban smoking in public places

Make the health service better

Make sure everyone can get a job

Provide more social services to help people

Help poorer people in the rest of the world and refugees

Cut down crime

Build more houses for people who are homeless

Stop people claiming benefits they are not entitled to

Bring in laws to protect animals

Improve schools

Get rid of traffic jams

2 Give your party a name and elect a leader.



- 3 a) Decide what you want to do about the three issues you have chosen. These are your aims.
- b) Decide how you are going to do it. These are your policies.
- 4 Draw a chart like the one on the right, and fill it in. (The completed row is just an example to help you.) When you have done this, you have written the party manifesto.

| Name of our party: | | |
|-------------------------|---|---|
| Our three issues | What we want to achieve (our aims) | How we can do it (our policies) |
| Get rid of traffic jams | Encourage more people to use public transport (trains and buses) instead of cars. Get lorries off the road by transporting more goods on the railway. | Charge people big taxes for driving cars in cities. Make public transport cheaper and quicker. Make rail transport of goods very cheap. |
| | | |
| | | |

- 5 When you have agreed your policies, you have to convince other people that you are right. You have to plan your campaign.
 - a) Discuss how you can persuade other people to agree with your views.
 - b) Design campaign posters and put them up in the classroom.
 - c) Write a leaflet to give to people. You could use a computer to help you design and print it.
 - d) Write a three-minute speech for the leader of the party to give to the whole class. Invite some visitors to listen to the speeches. Your visitors can vote on which party was the most persuasive.

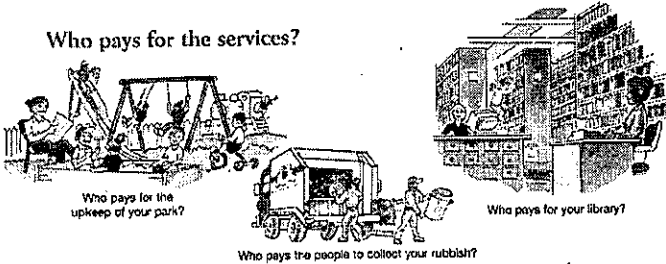
イングランド中等教育課程前期 (おおむね中学1~3年相当)

イングランドの教科書 "This is citizenship 2" (second edition)

Local communities and local government

24

Who pays for the services?



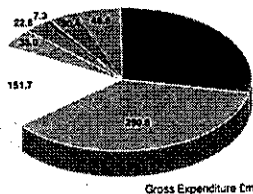
The simple answer is - you do! Or rather your parents and guardians do. Every household (with a few exceptions) has to pay Council Tax. The tax is paid to the local council, which provides the services in the area.

How much tax is paid depends on the value of the house or flat that you live in. Each property is put into one of the property bands, which go from A to H. Band A is for smaller properties, and Band H is for very large ones. People who live in council houses and flats pay a proportion of their rent as Council Tax. People who live in rented houses and flats have to pay the Council Tax on the property as if they owned it. If you are the only person living in your property you get a 25 per cent discount off your Council Tax.

Councils also get some money straight from the government.

So how do councils spend their money? The pie chart on the right shows how one council breaks down its spending.

- Education
- Housing
- Social Services
- Highways
- Environment
- Planning & Economic Development
- Culture
- Other Services



Activity

Using the pie chart:

- 1 What is the biggest proportion of money spent on?
- 2 What is the second largest amount spent on?
- 3 Why do you think these categories are so large?
- 4 What do all the categories tell you about why the council is important to people's lives?
- 5 Choose one category that you would spend a lot more money on. Explain how you would spend the extra money, and why.

Developing your survey skills

What do you know about the services in your local area?

Work in small groups and think about the services in the area where you live. Divide these up between you, and ask your relatives and neighbours what they think of each of the services you are researching.

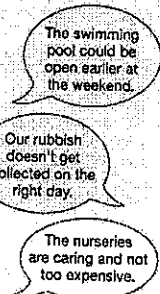
How good do they think these services are? Ask your respondents to rate them using the following scale:

1 = terrible 2 = poor 3 = good 4 = very good 5 = excellent

Ask them for their views on how good the services are and put notes on what they say in the third column or on a separate piece of paper.

If you want to add some other services, write them at the bottom of the chart.

(The illustrations of council services at the beginning of this section, on pages 32-3, will help you.)



| Services | Do you or your family/neighbours use this service? | How would you rate it on a scale of 1-5? | What have people said about this service? |
|--|--|--|---|
| Rubbish collection | | | |
| Schools | | | |
| Looking after elderly people | | | • meals • care |
| Leisure centres | | | |
| Parks | | | |
| Childcare/nurseries | | | |
| Library | | | |
| Noise control | | | |
| Recycling centres | | | |
| Special events such as fireworks displays or local fairs | | | |
| Car parks | | | |
| | | | |
| | | | |

Activity

When you have done your survey, get together in groups and write up a report on what you've found. Highlight any areas where the service is very poor. Send your report to your local councillor.

イングランド中等教育課程前期 (おおむね中学1~3年相当)

研究開発課題

社会生活及び職業生活に参加し、市民としての権利を行使し充実した生活を可能にする力（社会人基礎力）の形成を目標とし、市民社会に積極的に参加するために必要な情報獲得と運用能力及び、労働の役割と労働が権利であると同時に義務であることの知識と自覚を形成する。

研究の概要

高校生に自立と共生の能力を兼ね備えた社会人の基礎となる力を培うため、教科「公共」を創設し、道徳教育、就業体験を核にしたキャリア教育、その他今日的な課題に対応した教育を柱にした教育課程の研究開発を行う。

具体的には、

- 社会性とキャリアについての基礎的な知識と技術の習得
- インターンシップなどの体験活動
- 班別学習や発表を通じたコミュニケーション及びプレゼンテーション能力の育成
- 舞子SPT（生徒・保護者・教員の懇談会）との連携 等

研究開発の成果と課題

（研究開発の成果例）

公共の授業を通して、社会を知る機会を得たと思っている生徒や、働く人たちが、何に「働く喜びややりがい」を感じているかを知ることができたと考えている生徒、将来役立つ技能が身についたと感じている生徒の割合が7割を超えている（生徒アンケート結果より）。

（今後の課題例）

- ・育成した能力が「学校から社会への移行」にあたって有効かどうかの検証が不十分であった。
- ・公共の授業形式について、知識の学習と技能形成との間の関連を明確にし、いっそう系統性を持たせる必要がある。

16

【参考】シティズンシップ教育等の取組事例

東京都品川区

- 区内の全ての小・中学校で「市民科」を設置し実施
- 「基本的生活習慣と規範意識」「よりよい生活への態度育成」「社会的行動力の基礎」「市民意識の醸成と将来の生き方」を発達段階ごとの目標として学習

（取組の背景）

規範意識や社会モラルの低下、奉仕の心や公共心の欠如など、現在の社会が抱える課題の改善を目指す。

京都府八幡市

※ 平成22年度まで文部科学省研究開発学校の指定を受けて実施した取組

- 新設教科「やわた市民の時間」（市内全ての小・中学校で設置）でのコア・プログラムと、従来の教科、道徳、特別活動、総合的な学習の時間と関連付けて行うサブ・プログラムにより実施
- 「ルール・マナー」「民主主義」「経済・キャリア」「ユニバーサルデザイン」の4つの観点から学習

（取組の背景）

八幡市が目指す「豊かな市民力」「しなやかな身体力」を育成する中で、学校や学級への帰属意識の低下、児童・生徒会活動の停滞、地域社会への参加の減少など、将来の社会を担うべき子どもの育成の観点から様々な課題が見られる。

神奈川県

- 全県立高校で「シティズンシップ教育」を実施
- 公民科、家庭科、総合的な学習の時間、特別活動などにおいて実施
- 「政治参加教育」「司法参加教育」「消費者教育」「道徳教育」の4本柱で実践

（取組の背景）

社会的・経済的な自立についての課題が指摘されている、若者の投票率の低下、政治や社会、経済活動に対する知識が十分でない、規範意識やマナーの低下傾向がうかがえるなど。

お茶の水女子大学付属小学校

※ 平成22年度まで文部科学省研究開発学校の指定を受けて実施した取組

- 「公共性リテラシー」を全学習分野（ことば、市民、算数、自然、音楽、アート、生活文化、からだ、なかま）において育成

（取組の背景）

他者との異質性を認め、他者を思いやることや、社会の構成員として責任ある行動をとることができる子どもになってほしい。しかし、人や物事と関わろうとせず、身勝手な行動に走ったり、心や体を閉ざしたりする。また、他者の声を受けとめることができない、子ども同士の相互交渉力や自治力も弱い。

17

高校「在り方生き方教育」は どこへ向かおうとしているのか

谷田増幸 (兵庫教育大学大学院教授)

「高等学校での道徳教育」という言葉も、最近ではさほど珍しく感じられることもなくなったのだろうか。ただ、そのことと道徳教育の実践がおのおのの高等学校で定着しているかということとは別問題である。学習指導要領の規定によれば、高等学校における道徳教育は、「人間としての在り方生き方に関する教育」(以下「在り方生き方教育」と略記)を学校の教育活動全体を通じて行うことになっている。ここでは「在り方生き方教育」の基本的な性格を確認するとともに、これからの高等学校における道徳教育の課題と展望について考察してみたい。

「在り方生き方教育」と道徳教育改訂の要点

(1) 「在り方生き方教育」とは何か

のためには「自分自身に固有な選択基準ないしは判断基準」を持つことが求められる。それは生活世界にただ漂うなかで獲得し得るものではなく「生徒一人一人が人間存在の根本性格を問うことすなわち人間としての在り方を問うことを通じて」(同上)はじめて形成されてくるものと考えられている。それは様々な体験や思索の機会を通して自らの考えを深めることにより内面化され、自己の人間としての生き方を支えていく基盤となるものであろう。したがって、「引継則編」で定められている「人間の在り方に深く根ざした人間としての生き方に関する教育」は、人間存在の根本的在り方と一体のものとしてよりよい生き方を具体的に目指すというねらいが含蓄されている。

(2) 道徳教育の全体計画の作成

では、新学習指導要領における道徳教育改訂における要点として何を養えることができるだろうか。

実は、高等学校学習指導要領「第1章 総則」の第5款の3の(4)に、「全教師が協力して道徳教育を展開するため、第1款の2に示す道徳教育の目標を踏まえ、指導の方針や重点を明確にして、学校の教育活動全体を通じて行う道徳教育について、その全体計画を作成すること」という一文が、今回の改訂において加えられた。これは、中央教育審議会答申において「高等学校の道徳教育は、在り方生き方に関する教育を教育活動全体を通じて行うこととされているが、そのことを意識した指導が十分なされていない」(2008年、125頁)などの指

平成元年版学習指導要領の改訂以来、高等学校における道徳教育の考え方としてその核心に置かれているのが「在り方生き方教育」である。「人間としての在り方生き方」という表現は高等学校段階特有のものである。なぜ「在り方生き方」なのだろうか。また、「在り方生き方」とは何を意味するのだろうか。

「在り方生き方教育」の「趣旨」(高等学校学習指導要領解説 総則編平成21年11月)(以下「引継則編」と略記)2009年)によれば、高等学校段階の生徒には「生きる主体としての自己を確立し、自らの人生観・世界観ないしは価値観を形成し、主体性をもって生きたいという意欲を高め」(同上、19頁)ることが求められている。

人間が主体性をもって生きるとは、端的に言えば「一定の行為を自分自身の判断基準に基づいて選択する」ことである。そ

摘に思えたものと捉えられる。

こうして高等学校では、先行実施にあたる平成22年度から新たに道徳教育の全体計画の作成が求められることとなった。平成25年度より新学習指導要領が学年進行で実施されている各高等学校では、全体計画はすでに作成されているはずである。けれども、この全体計画が「校長の方針の下に、全教師の参加と協力を得ながら創意と英知を結集して」(引継則編、68頁)作成・改善されているのか、「在り方生き方教育」を支え生きて働くものとなって活用されているのかは、諸著語氏がおのおの状況下で把握されていることであろう。

「在り方生き方教育」の充実／改善のための実践上の諸課題

実際に「在り方生き方教育」がどのように構想され実践されているのかの具体については、紙幅の関係もあるのであとの関係諸氏の論考に譲ろう。けれども、その感否はこれからの創意工夫ある教育課程の編成や教育実践にかかっている。ここでは「在り方生き方教育」に係る実践上のいくつかの課題を提出して、今後の充実・改善のための手掛かりとしておきたい。

(1) 教育課程編成上の諸課題

第一は「在り方生き方教育」の充実を図る観点から、どのような教育課程を編成していくのかという素朴な問いである。言

うまでもなく、今回の改訂においても公民科の「現代社会」および「倫理」特別活動が「中核的な指導の場面」として位置付けられている。一般的には、この中核的な指導場面を生かしつつ学校の教育活動全体を通じて充実させるのか、あるいは義務教育段階の「道徳の時間」に匹敵する新たな科目等を設定してそれを中核に充実させるのかという選択肢が考えられる。

もちろん、高等学校の場合、各学校によつて教育課程も多様化してきていることから、教育活動全体としてその充実を図るという点に立ち戻つてそれを設計する方が現実的な戦略であるのかもしれない。どちらにしても各学校が「全体計画の作成」にどのようなねらいや構想を組み込むかにもよるだろう。

しかしながら、「中核的な指導の場面」としての内実を担保しようとするとき、その教育課程の編成は、関係科目等の性格や内容構成等の問いへと遷行する可能性がある。例えば、「在り方生き方教育」の立場から「現代社会」および「倫理」はゆるやかにわかちあうとみなすのか、あるいは中学校における要としての「道徳の時間」のようなねらいが強くあるとするのか。その際、「現代社会」と「倫理」との間にはどのような対立関係があるのか、またシテイズンシップ教育やP.S.H.E. (Personal, social, health and economic education) などの内容や指導方法が取り上げられるべきか。それらは公民科科目の存在根拠にもかかわってくる検討事項と思われる。このことは特別活動における「ホームルーム活動」として例外ではない。

(3) 「在り方生き方教育」の担い手はだれか

第三に「在り方生き方教育」の表層的な担い手はだれなのかという問いが残されている。もちろん、全教師が協力して道徳教育を展開することは大前提であろう。しかし、小・中学校における「道徳の時間」の指導は学級担任の教師が行うことを原則とする一方で、果たして高等学校ではそれが適切かどうか。中核的な指導場面や指導内容の深まり等を考慮したとき、避けては通れない課題である。ちなみに教育職員免許法およびその関係法令の定めによれば、高等学校免許のみの取得の場合は、「教職に関する科目」のなかで「道徳の指導法」に関する科目は不要となっている。担い手の根拠を問うことの困難さが、教育職員免許状（教員養成）の課題とともにここに控えている。

そのことはおくとしても、例えば公民科教師の場合を考えてみよう。ここに各都道府県段階の実教はないので、確定的なことは言えない。しかし、昭和53年版学習指導要領での「現代社会」新設、その後の単位数削減等を受けて、現在教育委員会によつては公民科教師の年度ごとの採用、なかでも「倫理」を専門とする教師の採用は依然厳しい状況と推測される。

以上の事情を勘案すれば、「倫理」を専門とする公民科教師が「在り方生き方教育」の中心的な役割を果たせる状況は各学校において必ずしも整備されていないだろう。ただし、ここでも根本的な問いが控えている。生徒の実態を踏まえ「倫理」の専門教育を受けた者が「在り方生き方教育」の中核的な存在とし

(2) 小・中学校との接続または差異

それと連動して第二に、今回の学習指導要領改訂では「小・中学校における道徳教育も踏まえつつ」（同上、18頁）と加筆され、小・中学校における道徳教育との接続を一層意識した、生徒の発達の段階にふさわしい高等学校における道徳教育が求められている。そこには小・中学校から連なる道徳教育のベクトルが存在する。したがって、小・中学校における道徳教育との接続または差異の観点から「在り方生き方教育」についてあらためて検討してみる必要がある。

折しも、小・中学校における道徳の時間を、学習指導要領等において「特別の教科 道徳」（仮称）として位置付けることなどが議論されている（道徳教育の充実に関する懇談会「今後の道徳教育の改善・充実方策について（報告）（案）」平成25年12月2日）。確かに「道徳の時間」が設けられているか否かという違いはある。しかし、義務教育段階における「道徳の時間」は、発達の段階を踏まえ高等学校においてどのように引き継がれるのかが問われている。また、高等学校とてそうした動向を等閑視できるものではない。茨城県や埼玉県、千葉県など各都道府県段階での構築と試行とはその一例とも考えられる。

なお、兼松儀郎によつて、「倫理」で培われるどのような能力が大学教育への基礎となるのか、あるいは大学教育が高等学校「倫理」に何を要請するのかなど、その接続を問題とする視点（兼松、2001、20頁）も指摘されている。

て専門的な指導・助言をすることが可能かどうかと。

けれども、例えばアリストテレス、カントやJ・S・ミル、伊藤仁斎や本居宣長などにおける基本的な諸概念を手掛かりにして学習する機会（科目「倫理」）もなく道徳教育の指導にあたる教師が学校種を問わず存在するという現実を目の当たりにすると、道徳以前の問題もあるのではないかと考えてしまう。

今後の「在り方生き方教育」の展望を見据えると、また越えなければならないハードルはいくつもあつた。それらは理念的な課題から実践的な課題まで多岐にわたり相互に深く関連している。また、教育課程内部と外部の諸要因も微妙に絡み合っている。結局のところ、学校として生徒の道徳性に係る課題をどのように捉えるのか、道徳教育をどう構築していくのかということが問われている。「在り方生き方教育」の行方は高等学校の存在根拠にも通底していると捉えるのは言い過ぎだろうか。

【引用・参考文献】

- ・在り方生き方教育研究会「在り方生き方教育」（学陽書房、1994年）
- ・兼松儀郎「義務教育公民科「倫理」の指導について—中等教育から高等教育への接続の問題を中心に—」（日本公民教育学会編「公民教育研究」第9巻、2001年）
- ・兼松儀郎「公民科教育への狭みと課題—人間としての在り方生き方—」（学陽書房、1991年）
- ・冊籍「高等学校における「在り方生き方教育」の充実に向け、公民科教育の役割—学習指導要領改訂を契機とした課題と展望—」（日本公民教育学会編「公民教育研究」第13巻、2011年）
- ・冊籍「高等学校における道徳教育の仮称」（教育的継承の作法、道徳教育の可視化は果たせらるべき—）（学陽書房、2001年）



高校生の社会性を育む

| | | |
|---------------------------------|--|------|
| 22 | 高校「在り方生き方教育」はどのように向かおうとしているのか | 谷田増幸 |
| 26 | 公民教育の「これまで」と「これから」 | 堂徳将人 |
| 30 | 特別活動で育んできたもの | 柴田 哲 |
| 34 | シタイズンシップ教育の可能性 | 小玉重夫 |
| INTERVIEW 養頭インタビュー | | |
| 5 | 迫りくる危機への対応(上) | 嶋崎政男 |
| 特別企画 | | |
| 38 | 再生会議第4次提言を受けて 「大学入試センター」「大学入試サミット」の報告から | 渡辺敦司 |
| 特別連載 高校現場から考える東日本大震災の被害と復興 第21回 | | |
| 42 | 「僕らが優勝すれば、避難している富岡町の人に勇気を与えられるかもしれない」 | 中井浩一 |

編集後記

■本号がお手元に届く頃にはもうお正月も終わる頃でしょう。振り返ってみると2013年は「教育再生」に携わった1年でした。今回はその内実に向き、寺脇研さんの対談相手として、教育再生実行会議の委員である、貝ノ瀬雄亮先生にご登場いただきました。非公開の会議ですので、非常に貴重な機会となりました。また、高校関係でも大きな動きになるのは、大学入試改革をめぐる動向でしょう。ちょうど昨年11月に大学入試センターが関連企画を開いていましたので、本号ではそのレポートを掲載いたしました。僕も参加させていただきましたが、待ったなしとはいえ、実際に変わるまでは何年もかかる話ですので、表面的な話に頼らさず、歴史的・原理的な話から、高校教育への影響まで正しく整理し、少しでも高校生がきちんと準備されるための仕組みにしていただきたいと思いますと感じた次第です。

【編集】
 ■映像で学ぶ校内研修教材Vと
 いうDVDでリアルには体験できない教育ソフトを発売しました。その第1期分は、現場でのニーズが多い「保護者トラブル」と「学校コンプライアンス」の2巻です。映像を「観る」だけでなく、再現ドラマのポイントごとにロールプレイやディスカッションができるようになっている、体験しながら理解が深まることにも、現職での対応力が高まります。テーマに關する現状や課題のまとめ、研修プログラム、映像のポイント解説などを収録した詳細で分かりやすい手引書と、研修用ワークシートが付録としてついていて、すぐに研修に活用できます。「保護者トラブル」は10分間の事例映像ドラマがある本、「学校コンプライアンス」は15分映像が2本収録されています。利用された学校からはご好評をいただいております。Page 16で「校内研修」と検索をしていただくと、サンプル映像をご覧いただけます。

次号予告 2014年2月13日発売予定

普通科高校の目指す道

- ★グローバル化と普通科高校
 - ★変わる大学入試への対応
 - ★新たな時代の新たな生徒指導課題
 - ★普通科におけるキャリア教育 ほか
- 教育再生実行会議第4次提言で、にわかに大学入試改革が注目されている。特に多くの生徒を大学へ送り出す普通科高校は、目が離せない話題である。他にも普通科ならではの課題も目白押しだ。次号では、2013年11月に行われた全普通科協会の報告を中心に、上記テーマに迫りたい。

月刊 高校教育 2014. Feb.

定価980円(本体933円)
2014年2月1日発行

発行所/学事出版株式会社
〒101-0021 東京都千代田区外神田2-2-3
TEL 03-3255-5471 FAX 03-3255-0248

編集人/高校教育研究会
発行人/安部英行
編集担当/花岡隆之、二井 薫
制作協力/ジャーナサルサポート
表紙デザイン/杉山 司
本文デザイン/アライブツウジャパン
印刷/親本/研友社印刷株式会社

内容に関するご意見・お問い合わせ
TEL: 03-3255-5472 FAX: 03-3256-0538
E-Mail: koukoku@gakujournal.co.jp

定購継続をお願いします
お近くの書店、または小社へ直接お申し込み下さい。
2013年度の年間誌代は概算14,000円(税込、増刊号2冊含む)です。送料は無料です。

雑誌の請求は
TEL: 03-3253-4826 〒114-8551 FAX: 0120-655-514
HP: http://www.gakujournal.co.jp/

営業部: 03-3255-0194までお問い合わせ下さい。